

# 特集：国語に新たな1ページを



April 2022  
大修館書店 117

## 〈談話会〉新課程の国語 いよいよスタート!

石原徳子／大井和彦／杉本紀子／  
永田里美／藤森裕治／山下直 …………… 2

### 「論理国語」

充実した学習活動のために 島田康行 …………… 8  
世界を広げる『論理国語』の新教材 塗田佳枝 …………… 11

### 「新編 論理国語」

かゆいところに手が届くコンテンツが勢ぞろい! 吉田東洋 …………… 13  
論理のチカラを育む多彩な教材 下西美穂 …………… 16

### 「文学国語」

教室から生まれる新しい文学の学び 古川佳奈 …………… 18  
多彩な表現世界に親しむための「文学国語」新教材 高橋龍夫 …………… 21

### 「新編 文学国語」

現代文も古典も書く力もこれ一冊で 高草真知子 …………… 23  
ようこそ、「文学国語」の授業へ 石原徳子 …………… 26

### 「国語表現」

表現力を培う・表現を楽しむ 藤森裕治 …………… 28  
表現する楽しみを教室に 山口正澄 …………… 31

### 「古典探究 古文編・漢文編」・「精選 古典探究」

さまざまな探究へいざなう教科書、古典探究 大倉浩 …………… 33  
どう使う? 「古典探究」の教科書 竹島千春 …………… 36

令和5年度用 大修館書店 新課程用国語教科書のご案内 ……中面カラーページ

## ●連載

(新連載)		
県立いまだき高校 国語科だより… 古きをたずねて新しきにノリノリ……………	いのうえさきこ	38
詩の教室へようこそ④…………… 詩の時間を告げるチャイムを…	和合亮一	44
いま、高校生に読んでほしい本… 野口聡一『宇宙飛行士 野口聡一の全仕事術』…	内田 剛	49
国語教師のための 古典文法指導講座⑨…………… 係り結びは「!」と「?」の気持ち	大倉 浩	50
…………… —紫式部にファンレターを書こう⑥		
コトバのひきだし⑨…………… 「小細工がうまい利口者」って褒めたつもり?…	関根健一	52
青山あり! 中国祠墓紀行⑥… 李廣墓(甘肅省天水市)	平井 徹	54

## ●コーナー

教室が活発になる 授業のアイデア…………… 古典POP広告を作ろう	早野賢謙	40
…………… ~学校図書館との連携授業~		
特別記事…………… タイムマシンに乗って	幸田国広	48
…………… 「国語教育は文学をどう扱ってきたのか」のススメ		
投稿…………… 「言語文化」で近代詩の授業をいかに展開するか	黒岩 淳	56
…………… —「鑑のうへ」を例として—		
えつらん室…………… 文章がフツーンにうまくなる とっておきのことは術/AI×データ時代の「教育」戦略		60
…………… 英語教師がおさえておきたい ことばの基礎的知識/SDGsと防災教育		
国語のNews & Topics……………		62

# 〈座談会〉新課程の国語 いよいよスタート！

今春から、いよいよ高校国語での新課程の授業が始まります。「戦後最大の改革」と呼ばれた学習指導要領の改訂。新しい国語科の授業は、どのようなスタートとなるでしょうか。大修館書店では、必修科目4点、選択科目7点、計十一点の新教科書を刊行します。各教科書に込められた思いや、それを使ってどのような授業が考えられるかについて、編集委員の先生方に語り合っていました。

石原徳子 大井和彦 杉本紀子 永田里美 藤森裕治 山下直

司会・編集部



新課程、ついにスタート！

——いよいよ新課程が始まります。学校現場ではどんな雰囲気でしょうか？

永田 新しい教科書の採択も決まっていよいよ始まるんだな、というイメージができてきたという印象です。表現する時間が増えることで、観点別の評価をどうしようかと不安に思っている先生が多いと感じています。

石原 勤務校では二、三年、実験授業をしていたので浸透はしている印象です。やはり評価はネックですね。

山下 義務教育ですでにやっているこ

とを、高校でどうやるか、ということなので、本来であれば、あまり構えすぎる必要はないのかなと思います。

藤森 生徒自身の成長は数値的・機械的には評価しきれないものです。話し合いが表面的にうまくできて、パフォーマンスだけで実はあまり中身の無い生徒も多い。逆に話すのは上手でなくても、なぜできなかったか、どういう点ができず悔しかったか、ということが正確に説明できれば力はあるとも言えます。評価は指導の実態によるでしょう。

石原 確かに、どうしても五段階評価な

山下 そうそう。ちなみに「現代国語」ができた当時は、何を教えればいいかわからないと言われていたんですよ（国語Ⅱ古典の時代）。でも、研究会等の実践発表ではいまや現代文の方が主流になった。今回の改革も、いきなり「活動」を全部やらなきゃ、と考えるのではなく、できそうなところから徐々に慣れていけばいいと思います。あとで詳しく話しますが、そういうニーズに合致した教科書になりました。

杉本 新課程に抵抗感がある先生は、取り組む活動のイメージがあまり沸かないのではないかなと思います。大修館の教科書には、「やってみようー」と思える活動のヒントが満載なので、活動が思いつかない、イメージしづらいという先生こそ使ってほしいな、と思います。

取り組みやすい「現代の国語」

——では、具体的な新教科書の話をつかいます。「現代の国語」二冊はどんな教科書になりましたか。

山下 さっきも話に出しましたが、すんなり入れる、ということを意識しました。

国語はすごく変わった、と世間では言われていますが、抵抗を感じない、使いやすいついと思ってもらえる教科書にしたいと思いました。「話す・聞く」「書く」単元の冒頭に、活動の参考になる「導入」という文章を入れるなど、工夫を凝らしました。

石原 「こういう風にやれば話せるようになる」という自分自身の経験もふまえて作りました。スライドを用いたプレゼンやスピーチなど、実際の社会で役立つ内容を豊富にそろえられたのがよかったです。取り上げた活動も、楽しそうに仕上げられました。

大井 「話す・聞く」などの「現代の国語」的な学びについて、国語科のアイデンティティ、他教科では担わない部分をはっきり示したという意味で、大きな意味をもつ変革だだと思います。特に「現代の国語」（現国76）のほうは、最初からコンピテンシーを明示している感じがしますね。

藤森 文章があって、それを受けて書く活動が設定されていることが多いですが、慣れている先生は逆にして、まず書かせてから、その後文章のお手本として読む教材に進む。そうすると、生徒の食いつきが変わってくるでしょう。『現代の国語』の吉見俊哉「インターネット時代の音楽産業」（109ページ）も、統計資料を用いた文章のお手本として学ぶところがとても多い。どうすれば生徒に教材への興味をもたせるか、という観点では、このような教材・単元設定は、文章を読むことへの意欲が高まるので非常にいいですね。

石原 「社会への視点②」（186ページ）の、いわき野菜の魅力を伝えるCM作成の活動も。相手を意識して伝える、ということの学習にすごくいいですね。動画を使う授業も楽しそう。いまの生徒は動画の編集なども大変上手なので、動画を作りながら学ぶ授業もやってみたいと思います。

大井 「新編現代の国語」（現国77）は、スキルを段階的に勉強していく流れがしっかり感じられます。従来の「国語総合」と異なる点として、活動やスキルに紐づける形で評論など「読むこと」の教材が並んでいるのがいい。「ザ・現代の



石原 徳子 (いしはら のりこ)  
神奈川県立多摩高等学校  
教諭

国語」ですね。

山下 話したり書いたりすることが苦  
手な生徒も、この教科書に沿ってやれば  
本当に力がつきますよ、というものな  
った。それから、国語科では、「何が  
できるようになったのか」が見えなくな  
りがちですが、今回は単元のねらいが明  
示されているし、素材も具体的なので、  
生徒も何ができるようになったかが見え  
やすい。見た目では、『新編 言語文化』(言  
文70)と同じで、紙面の作り方がとても  
ビジュアルで、見ていて楽しいですね。

大井 経験がないと活動のアイデア  
が見えにくいですが、大修館の教科書で  
は活動の中身や目標が一目で見えるの  
で、やりやすそうです。

永田 教員が使いやすいのはもちろん、  
生徒にとっても目標がわかりやすいもの  
になっていきますよね。「活動」というと、  
永田 『言語文化』の見返し「世界の言  
葉」が気に入っています。「言語文化」  
そのものへの「窓」にもなるページです  
ね。文化だけでなく、それらを表す言葉  
があることを知ることも重要です。私は  
特に、「もう帰れない場所に帰りたいと  
思う気持ち」という意味の、「ヒライス」  
という言葉(ウェールズ語)が好きです。  
そういう言葉があるということは、そう  
いう価値観をもつ文化があることを示し  
ていますね。これは、「伊勢物語」の切  
ない恋、「はるばる来ぬる旅をしぞ思ふ」  
にも通じる世界観があるようにも感じま  
す。また古語における反実仮想の考えに  
も通じるかもしれません。このページか  
ら、文化の中の言葉、言葉の中の文化が  
目に見えるので、生徒もそれぞれの言語  
文化の旅に出るきっかけになると思いま  
す。



杉本 紀子 (すぎもと のりこ)  
東京学芸大学附属国際中  
等教育学校教諭

無理やりやらされているように感じる生  
徒もいるかもしれませんが、今回の教科  
書では、単元の目標にもとづいて具体的  
な活動が載っているし、その目的に見  
合った文章が載っているのので、やるべき  
ことが見えやすく、モチベーションも上  
がりそう。

藤森 具体的な教材では、『新編 現代の  
国語』は座標軸の思考ツール(177ページ)  
が載っているのがいいなと思いました。  
石原 いかにも「現代の国語」らしい「構  
成」「論理」などの要素に加えて、「パン  
屋の手紙」「企画書」とりのトトロ」の  
ような心に訴える「依頼文」や「企画書」  
の例も、両方の教科書に入っているのが  
うれしい。心に訴えながら文章の目的に  
応じて必要な要素が押さえてあり、「い  
いお手本」になりそうです。

言語文化の「窓」を開きたいために

——「言語文化」はいかがでしょう。

永田 『言語文化』(言文70)の編集会議で  
は、指導要領もふまえて、「つなげること」  
「広げること」「深めること」を意識しま  
した。教科書の構成や、一冊をとおした

杉本 指導書を書きながら、今までと同  
じ教材でも切り口が違うことを実感しま  
した。例えば中原中也「サーカス」(108ペー  
ジ)と、その英訳「Circus」(110ページ)。  
同じ教材でも、訳と比べることで新しい  
ことが見えてくる。「探究 災害の記録」  
(197ページ)も、実際に単元を設定し、勤  
務校でやってみました。「災害」という  
テーマですが、コロナ禍を経験した生徒  
だからこそ刺さるものがあつたよう  
です。そういう意味でも、古典から現代  
へのつながりを生徒が実感できるもの  
になったと思います。

石原 『言語文化』は、「伊勢物語」の「か  
きつばたの折句」(196ページ)の英訳  
「[RS]」に感動です。今生きている世界  
での言語文化的な広がりが実感できま  
す。

永田 そのほかにも、現代文編では、ヘ  
ミングウェイ「橋のたもと老人」(101  
ページ)を載せていて、英語の原文をふ  
まえた教材化をしています。そのような  
随所でのつながり、「言葉のタネ」が一  
冊を通じてたくさんまかれていてるので、  
生徒たちにとんどん耕していってほしい



永田 里美 (ながた さとみ)  
明星大学准教授

コラムなど、随所にその思いを盛り込み  
ました。生徒には教科書を出発点にして  
いろいろな「言語文化」を学び、自身の  
表現にもつなげてほしいと思います。

藤森 『言語文化』の学びでは、言葉を  
とおして世界を見つめることを意識して  
ほしいと思います。各国で、いろんな形  
や向きをした、言葉の「窓」がある。そ  
れらを知ることで、生徒が自分の「窓」  
に新鮮な風を感じられるような教科書に  
なってほしいと考えました。それを体現  
するのが巻頭の吉岡乾「世界を見わたす  
窓」(10ページ)。著者はバキスタンの少  
数言語の研究者で、なくなりそうな言語  
が増えていくことを指摘し、言語がなくな  
ると、その言語の「窓」もなくなつて  
しまうことを意味する、と言います。私  
たちも、自分たちの「窓」を閉ざしては  
いけない、ということを伝えたいですね。

ですね。

大井 『新編 言語文化』は、国語総合の  
新編系を使っている高校生が食いついて  
くる教科書。小説・古典は定番化を目指  
した部分もありましたが、評論・随想な  
どで、文化や言葉への認識を深められる  
教材を多く収録しました。

山下 これは『言語文化』もですが、ぼつ  
と見は「国語総合」と似ている感じがす  
るので、なじみやすくして、使いやすそう  
な印象です。なじみのある文章も豊富で  
いいですが、カラフルさと紙面のビジュ  
アルさも際立っていて、まさに「便覧一  
体型教科書」ですね。

藤森 『言語文化』を「窓」だとすると、  
『新編 言語文化』は「風」だと思いま  
す。作中で風が吹いている教材を探すと、村  
上春樹「鏡」(56ページ)にも、「羅生門」  
(82ページ)にも、佐藤多佳子「一瞬の風



藤森 裕治 (ふじもり ゆうじ)  
文教大学教授



山下直  
(やました なおし)  
専修大学教授

になれ」(49ページ)も川上弘美「水かまきり」(30ページ)も、全部重要な箇所に出る風が出てくる。でも、これは意図的な編集ではなく、偶然の結果。裏を返せば、こんなふうな教材間でいろいろなつながりを見出せる。いろいろな使い方があり、おもしろい教材書です。見返しの「キーワードで読み解く言語文化」は、現・古・漢でのつながりを視覚化していて、まさにそういう精神を体現しています。

杉本 『新編 言語文化』の読書案内がすごくいいと思います。図書館司書がない学校では、生徒に読書の魅力を伝えるまとまった時間がほとんどとれません。教科書内でたくさん紹介してくれるのはすごくありがたいし、生徒もわくわくするのはいいと思います。

与論』などの新しいテーマの教材も入れたので、そのあたりのつながりも見えてほしいです。

杉本 『論理国語』は単元名の横に問いかけが付いているのも魅力的ですね。たとえば、第一部の第三単元「共同体のいま」には、「——社会において価値あるものとは何か?」という問いかけが付いています。発問が思いつかないときに助かるし、単元のねらいも見えやすい。

石原 単元名の横の問いかけ、私も好きです。「考える」ことにつながっていくイメージがもてます。コラム「テーマと読書」も、アカデミックで素敵。

永田 『文学国語』(文国70)は考えを深めて、それを豊かに表現することもナビゲートしてくれる教科書というコンセプト。あまり難しく考えすぎず、国語という科目の日常生活に密着した側面を考えてほしいです。例えば、生活の中で映画や小説に接したときの感じ方をどう表現することができるのかといったことになげたり、さらには人生の日々に潜む「文学の香り」を感じることに繋がったり。そしてそれを感じ取るための教材がこの

「考える人」をつくる選択科目

では最後に、選択科目の教科書についてはいかがでしょうか。

山下 どの科目でも、深く考えることが大切です。「文学国語」も、読んで感じたことを伝えるためには論理的にならざるを得ないし、「論理国語」で論理的に説明する上で何かに着目するときには、文化的な素養も必要でしょう。各科目で学ぶ内容はおのずから通じていくと思います。

藤森 いろんな仕掛けができそうな教科書ですね。教科書を使って、自由に組み合わせさせてほしい。

杉本 そうそう。教える材料がたくさんあって、選べる楽しさがある。教科書を全部終わらせないといけない、という考え方ではなくて、やりたいところを選んだり組み合わせたりして楽しんでほしいですね。

大井 『新編 論理国語』(論国70)では、野矢茂樹「論理的な人とはどういう人か」(18ページ)が最初に載っていて、全員が論理に向き合える構成でいいと思います。そもそも論理とは何? っていうこ

教科書には豊富にそろっています。

藤森 『新編 文学国語』(文国70)は、「古典の世界」が入っているのがいいですね。「山月記」(90ページ)の隣に「竹取物語」(114ページ)が入っているのも、「月」のイメージで共通する世界観を感じられます。

石原 『新編 文学国語』は創作の活動が入られたのがよかったです。「誰も小説家になるわけではないのに、なんで学校で文学の創作をやるのか?」という疑問が浮かぶときもあつたんですが、文学作品を読むときの着眼点がよくなることがあるんだな、と気づきました。自分で書くことで、書き手の工夫やすぐれた描写に気づき、学習者の中の文学の世界が豊かになる。

杉本 三冊の「古典探究」(精選 古典探究(古探70)、古典探究 古文編(古探70)、古典探究 漢文編(古探70))について、まず、教材のラインナップに安心感がありません。それから、芥川龍之介「英雄の器」など、古典への興味が湧いてくる近代以降の文章も盛りだくさん。読み比べの学習もぜひ使ってほしいです。



大井和彦  
(おおい かずひこ)  
東京大学教育学部附属中等教育学校教諭

とを、身近なところから学べる。

杉本 『新編 論理国語』の「ウォームアップ」がすごくいいですよ。

山下 「ウォームアップ」「例題」というコーナーを入れて、この単元ではこういうことをやるんですよ、というのを、単元の冒頭ではっきり示したのが工夫したところですね。その後には本教材をやった、最後に設問に取り組み「フォーカス」で締める、という流れを意識して作りました。

石原 『新編 論理国語』のほうは、「対比をとらえる」「主張をつかむ」など、学習の方向を示す単元名になっていて、その具体的なスキルが「ウォームアップ」で示される、という流れがいいですね。

大井 『論理国語』(論国70)に関しては、バリエーションの豊富さを意識しました。哲学・言語系を充実させつつ、「贈

藤森 『国語表現』(国表70)は、実用的な部分に加えて、「たはいやゲーム」(210ページ)など、楽しい要素も入れました。このほかにも折句、回文など、遊び心が満載の教科書になっています。

——必修も選択も盛りだくさんですが、それぞれに特色のある内容となりました。

杉本 新しい教科書には、活動のヒントがたくさんあります。私もここにいろいろ活動にチャレンジしたいし、生徒にもぜひ、これをヒントにしながら学習してもらえたらいいかなと思います。

山下 何かを表現するときって、すごく考えると思うんです。それぞれの科目の特性をふまえて、「考える」人を作る、ということが軸になっていると思います。

永田 必修も選択も、社会人になっても手元に置いてほしいし、置いてもらえる教科書にできたのではないのでしょうか。

——ありがとうございます。

(聞き手・編集部)



# 充実した学習活動のために

しまだ やすゆき  
島田康行

筑波大学教授

## ■「書くこと」の学習活動

新しい「国語」の授業が始まりました。「現代の国語」の教科書を開けば、もとより「国語」の学習内容は「読むこと」だけではないという当たり前のことが、あらためて意識に上ることでしょう。

しかし、新学習指導要領の告示後、「実用的な文章」を素材とした共通テストの試行調査問題を見て、これは「読解」ではなく「情報処理」を求めるものだと憤った人がいました。ことほどさように「国語」といえば「読解」だという意識は根深いようです。

学習指導要領が「実用的な文章」を必ず取り上げることを求めるようになったのは平成一二年版の「現代文」からです。大修館書店の教科書では、これまで報道や広報、法令文など、さまざまな素材を「実用的な文章」として取り上げてきましたが、当初の編集会議では「作家の書簡を採録して済ませよう」という声もありました。

検討し、その妥当性について多面的・多角的に考えるような読み方を言います。

また、ここでの「実社会」とは、私たちが生きる現実の社会そのものと説明されています。私たちが多様な他者と主体的に関わりながら生きている場所、と言い換えることもできそうです。

そこで必要となる「論理的に書いたり批判的に読んだりする力」の基礎となるのは「事実を伝え、意見を述べる」力です。それは「よりよく生きるための言葉の力」、あるいは「身を守るための言葉の力」と言えます。

大修館書店の「論理国語」は、高校生が身に付けるべき「事実を伝え、意見を述べる」力をしっかりと養い、「論理的に書いたり批判的に読んだりする力」を伸ばすことを虚心に考えた教科書です。科目の目標をきちんとふまえ、「書くこと」に関する指導に五〇〜六〇単位時間程度を配当することとされた「内容の取扱い」も無理なく実現できるよう、各単元に「書くこと」の学習活動を配置しました。単元ごとに目標を明確にして、「言葉を定義する」「統計資料から分析したことを書く」「情報を集めて分類する」「相手を意識して書く」「対比して論じる」「仮説を立てて検証する」ことなどを、段階を追って確実に学べるように構成しています。

「それならば読む価値がある」というわけでは。

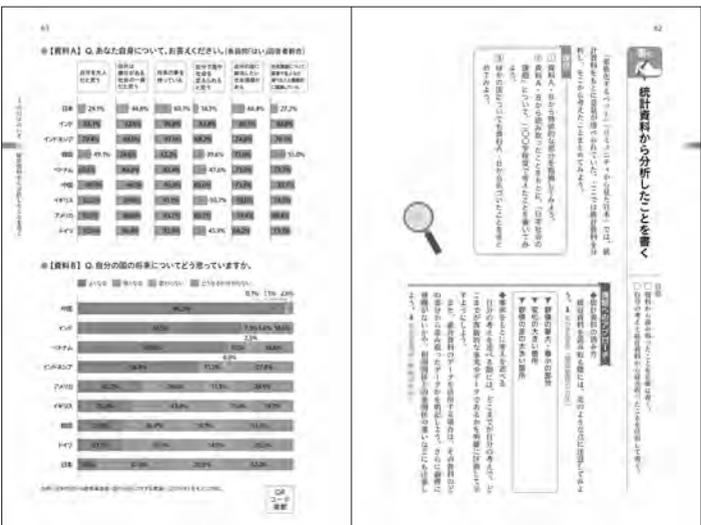
以来三〇余年、「国語」は何を学ぶ教科なのか、そのことについて教科書を作る者、使う者の意識はどう変わったのでしょうか。

今回、「実用的な文章」や図表、統計資料などを活用した「書くこと」の学習活動を数多く用意しました。先生方のご実践の中から、さらに多様なアイデアが生まれ、てくることを期待しています。

■「論理的に書く、批判的に読む」ために、事実を伝え、意見を述べる力を育てる

「論理国語」は、主として「思考力・判断力・表現力等」の創造的・論理的思考の側面の力を育成するため、実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする力の育成を重視した科目とされています。

「批判的に」読むとは、筆者の思考の筋道を丹念に吟味・



「論理国語」 pp.62-63 「統計資料から分析したことを書く」

## ■「読むこと」の教材もいっそう充実

個々の単元で、どのような力を付けようとするのか、そのためにどのような学習活動が必要なのか、そこでは



論理国語 (論国705)

# 世界を広げる『論理国語』の新教材

## 新しい時代の「書く」「読む」力

新しい教科書の巻頭に位置するのが、『世界を広げる』**「批評」の言葉**（宇野常寛）です。筆者は、インターネットに文章を「書く」ことが日常となっている現代では従来の「読む」から「書く」というルーティとは異なり、「書く」を起点として「読む」との往復運動を設計する必要があると主張します。そして対象をある態度で「読み」「得られたものを「書く」ことは、「あたらしく問いを設定する」すなわち「批評」する行為だと述べます。

今、私たちは望むと望まざるに関わらず、ネットメディアを避けては通れません。その状況を生き抜くのは、特に若い世代で切実な問題です。「何かについて書くこと（批評）は、自己と自己の外側にある何か（世界）の関係性について言葉にすることだ。それは自己像に対す

どのような教材が相応しいのか、そのようなプロセスで教材を選定した結果、「書くこと」「読むこと」の学習活動をさまざまな展開するための、バラエティ豊かな教材を数多く取り揃えることになりました。文章の内容は実社会のさまざまなテーマを幅広くカバーするように選んでいます。「思考の枠組み」「メディアの変容」のように新しい発想で構想された単元も特徴的です。

第I・II部を合わせて、四〇本近くを採録した評論文を概観すれば、長く「現代文」の教科書で扱われてきた定番教材と、中堅、新進気鋭の筆者たちによる読みごたえのある教材とがバランスよく配置されていることに気付くでしょう。宇野常寛、松村圭一郎、国谷裕子、秋田麻早子ら注目の書き手の文章も、教室で取り上げやすいように配慮して採録しています。

各教材の「学習のポイント」は「内容把握」「考察・発展」「語彙・表現」で構成しました。これを活用することで「読むこと」の指導事項「ウ主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること」や「キ設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること」などを確実におさえられるようになっていきます。

意識の肥大化が避けられないこの時代に、より必要とされる言葉なのだ。」という末尾の二文は、生徒を力づけ、新しい科目を学ぼうとする意欲をかき立てることでしょう。

## さまざまに「読む」

昨今の課題として、図表や写真などの非連続型テキストと文章のような連続型テキスト、あるいは異なる形式の文章を関連づけて読む力の育成がありますが、本教科書では多様な読む力が身につく教材が掲載されています。

『絵を見る技術』（秋田麻早子）は、同名の書籍が話題となりました。美術史家の筆者は「絵の見方は教えられるか？」というテーマに取り組み、社会人を対象にしたワークショップを開いています。本文は、美術のプロが絵をどのように見

また、言語活動例の「ウ学術的な学習の基礎に関する事柄について書かれた短い論文を読み、自分の考えを論述したり発表したりする活動」はこれまででない学習活動になりますが、これに活用できる教材もしっかり用意しました。

こうした内容を備えたこの教科書は、大切な生徒のみなさんの「論理的に書いたり批判的に読んだりする力」を育むために大いに役に立つものと確信しています。



同書 p.110「学術の専門語」、p.289「共感覚と比喩」学術的な学習の基礎を学ぶ活動にも対応。

## 塗りたよしえ 塗田佳枝

筑波大学附属坂戸高等学校教諭

ているかを述べたものです。色使いや配置、対比など絵の「造形的な部分を観察」することが深い理解につながるという指摘は、文中の表現を根拠として解釈を組み立てていく文章の読み方と通じることに改めて気づかされます。特に、美術教育を受けた人と受けない人が写真を見た時の目の動きの違いや、専門家が絵を観察する様子を時間の経過に沿って示した箇所などは、興味を引くだけでなくビジュアルテキストの読み方を理解する手助けにもなるでしょう。授業では通読前に絵を見て気づいた点を書き出して専門家の指摘と比較してみたり、後置の「図版を分析して書く」活動につなげたりするなど、主体的に学ぶための多様な活動が設定できるところも魅力です。

また題材の扱い方やものの見方・考え



新編論理国語（論国706）

## かゆいところに手が届く コンテンツが勢ぞろい！

よしだとうよう  
吉田東洋

元東京都立新宿山吹高等学校教諭

この教科書の編集会議では、次のような声が尽きませんでした。

- ・「国語が苦手な子のためには……」
- ・「現場の先生方がいつも一人で準備している負担を軽減するためには……」
- ・「新学習指導要領や新傾向入試に、形だけではなく、本質的に対応させるには……」

これらの「かゆいところ」をすべて解消し、完成したのが、『新編論理国語』です。目次（本誌中面にも掲載）をご覧になるだけでも、本書のコンセプトが精緻に体现されていることが伝わると思います。しかし本稿ではさらに踏み込んで、右記の想いをどのように形にしているのか、具体的に設置した単元や新タイプのコーナーに触れながらご紹介させていただきます。

### 自分たちが生きる時代を考える

本教科書は、現代を考える鍵となるテーマに基づいて単元が構成されています。「グローバルゼーションと文化」（渡辺靖）では、現在のグローバルゼーションの時代においてはグローバル／リジョナル／ナショナル／ローカル／コミュニティという重層的な位相を踏まえて文化を捉える必要があることが指摘されています。そのヒントとなるグローバルゼーションの事例やグローバルゼーションの肯定派・否定派への反例、グローバルゼーションのスーパーモダンあるいはポストモダンの側面など、グローバルゼーションをめぐる問題を例示しつつ論じられており、現状が理解しやすいと思います。

授業でぜひあわせて取り上げたいのが、「参考」の「現代日本の開化」（夏目漱石）です。「外発的」な「開化」を強いられた明治時代と、複雑な状況が絡み合う中で「文化」の「使い方」に対する創造力が問われる「現代と重ねて扱うこと」で、自分たちの生きる世界を多角的に考えることができるでしょう。

総務省のグラフからは十代、二十代では情報源としてテレビよりインターネットを重視する割合が高いことが読み取れます。そのような中、筆者は社会的合意形成に向けた対話のためにメディアは「異質なもの」「多様性」を提示していく必要があると論じています。文章とグラフを関連づけて読んだ上で、受け手である私たちはメディアアとどのように向き合うべきかを考えることができる教材です。

最後に、横書きで掲載された「共感覚と比喩」（山梨正明）にも触れておきたいと思います。本文では「なめらかな味」「あまい声」など、形容される語と異なる感覚を用いて形容する比喩的な表現が成立する条件を確認した後、その条件を逸脱して感覚表現が創造されるケースを示しています。表現の成立条件を丹念に追うことは、言語への認識を深めるのに効果的です。加えて「学習のポイント」の横書きが読みやすい文章の例を考える活動では、内容にふさわしい表現形式についても気づかせることが可能です。目的や状況に応じて効果的な表現・形式を選択しようとする筆者の意図を捉えるのも、「読む」力の重要な一側面と言えます。

### 単元で求められる力を明示した「ウォームアップ」

従来の教科書では、教材・単元ごとの導入を教員が準備して「この教材（単元）では何が求められるのか」を提示するのが大変でした。生徒の方も、何を意識して学習に取り組むのかを見失いがち。こういった悩みを一挙に解決するため、「ウォームアップ」という導入パートを設けました。たとえば「具体と抽象」の関係を読み解くことが求められる文章教材の最初には、具体と抽象の関係についての説明＋簡単な問題が用意され、授業のはじめの導入をこのコーナーだけで完結させることができます。また、「具体と抽象」のような特に汎用性の高い知識・技能については、この「ウォームアップ」の直後に、見開き1ページで完結する論理的な文章を用いた「例題」も用意してあります。生徒に、その単元で必要になる知識・技能を明示して学習の方向性を強く打ち出しつつ、教員の準備負担も軽減できるつくりになっています。





# 論理のチカラを育む多彩な教材

しもにし みほ  
下西美穂

東京都立江戸川高等学校教諭

『新編 論理国語』には、教科書初登場となる教材が多数掲載されました。ここではそのいくつかをご紹介します。

## 「論理的に考えること」について考える

まず、「論理的な人」とはどういう人か（野矢茂樹）。「論理国語」という科目名ですから、授業で「論理」とは何かを考えさせることは大切なことです。しかし、なにもきつかけがないなかで「論理的とはどういうこと？」と投げかけても、生徒たちから声はあがりにくいでしょう。この文章では、「映画見に行こうよ」から始まる身近な会話の例を挙げ、こういふ会話は論理的、こういう会話は非論理的と優しい語り口で紹介しています。

続いて、「補助線を引きながら考える」

かなか骨が折れます。ぜひ、この文章を練習に使っていただきたいと思います。『新編 論理国語』では、単元「対比をとらせる」「主張をつかむ」などにも、読む力を身につけるための練習に適したコンパクトな文章が、「例題」として掲載されています。内容を読み取らせるだけでなく、「読み方」を習得させるために上手に授業で使いたいものです。内容もとても興味深いものです。「生き延びる」という意味では、首の長いキリンの先祖は、かなり不利な状況に立たされたのに、生き残れたのはなぜ？ ぐいぐい読み進められます。「自分の特徴に合った生き方を選択できたから」生き延びることができたという筆者の言葉は、私たちの生き方にも訴えるものがあります。

この単元には、「共進化」を易しく論じた「ウサギの耳はなぜ長い？」（上田恵介）も取められています。ともに「進化」を扱っていますので、二つの文章の共通点や相違点を考えるなど、読み比べにも使うことができます。

（鷲田清一）。筆者は、「正解などそもそも存在しないところ」で、「いろいろな補助線を引きながら」、つまり様々な方向から見ることで、投げ出さずに考え続ける「知的な肺活量」をもつことを勧めます。正解がない中で考え続けることは苦しいことです。しかし筆者は、「わからないままにずっと持ち続けること」の大切さを説き、「誠実に考え続ける、『賢い』人になってほしい」と心から願っている。と、生徒の背中を押してくれま

「具体と抽象」という単元の冒頭に位置する文章です。見開き二ページに収まるコンパクトな量で、生徒に具体と抽象の関係や具体例の役割を理解させるための、わかりやすい構成の文章となっています。「例えば」「つまり」「このように」などの言葉がきちんと使われており、文章を具体と抽象に色分けしながら読むといった練習ができるでしょう。内容としては、「キリンの首が長いのはなぜか？」を糸口に、生物の進化をわかりやすく説明している教材です。キリンという具体例があることによって、進化という難しい内容がわかりやすくなっていることに、生徒も気がつけるでしょう。具体と抽象を区別して読めるようになることは、生徒に身につけてほしい力です。が、その練習に適した文章を見つけない

## 論理的な読み方を習得する

「突然変異と進化の関係」（長沼毅）は、

## デジタル時代から考える

時代の先端を扱った文章も掲載されています。「デジタル地図から見える世界」（松岡慧祐）では、「紙」の地図とGPS機能を使ったデジタル地図を対比させ、その特徴を紹介しています。「紙」の地図は、紙を「広げる」ことによって普遍的な視点から空間を見下ろし、主体的に読みとるものであり、さらに、地理的知識を「広げる」こともできるものです。一方、GPS機能を使ったデジタル地図では、「わたし」という個人を照準とし、自動的に地図が動いて常に「わたし」が中心となります。そして、デジタル地図は、目的地向かうルートを選択するた

めのものとなり、人々の視野を「狭める」ように機能します。筆者は、これらをふまえ、全体を相対的に把握するのではなく、「現在地」とその周辺だけに視点が埋没するようになったのではないかと、全体を見渡すような想像力を失いつつあるのではないかととめます。先端技術を使った機器は便利であり、私たちは立ち止まって考えることもなく使っています。が、失ってしまったものがあるかもしれ

ません。そうしたことを、身近に使っている他のものについても考えてみるきっかけになるでしょう。

「ロボットに心はあるか」（石黒浩）は、ロボットを「人間らしく」振る舞わせるにはどうするかという話題で始まりま

す。その後、演劇に出演するロボットが「人間らしく」見えることを紹介しながら、「心とは何か」に問いは移っていきます。「心とは、他者との関係性のなかで『感じられる』もの」であり、「見る者の想像のなかにある」と筆者は述べています。ロボットという新しく私たちの生活に登場したものを通して、わたしたちの「心」を問い直すのです。

これらの文章では、新たに登場したものに



# 教室から生まれる 新しい文学の学び

ふるかわかな  
**古川佳奈**

専修大学松戸中学校・高等学校教諭

■はじめに  
学習指導要領が改訂されることに伴い、この数年は各所で教育課程の編成に関する議論が重ねられてきました。とくに選択科目については、限られた単位数の中でどの科目を設置するのか、学校の実情に合わせた判断がなされたことと思います。

「文学国語」は、「豊かな感性や情緒を備え、幅広い知識や教養をもち、思考力、判断力、表現力等を身に付けるためには、文学作品などの文学的文章を通して様々な学習が必要不可欠であり、今後の文化の継承と創造にも欠くことができないものである」という趣旨から設置されました。

大修館書店の『文学国語』は、学習指導要領に示された指導事項を踏まえつつ、生徒たちが無理なく資質・能力を身に付けていけるよう工夫されています。

## ■教科書の特徴

『文学国語』の目次構成は、学習上の便宜を考慮して二部構成となっています。第一部と第二部の間には、「物語の構造」や「登場人物の状況」、「文体と表現」、「比喩と象徴」など、作品をより豊かに読むためのコラムが掲載されています。教材は、小説・詩・短歌・俳句・戯曲のほか、伝統的な言語文化への関心を高める随想・評論など、多様な表現形式の作品が並び、従来から教材としての評価が高い「山月記」「こころ」「舞姫」などの作品も取り上げられました。生徒たちが文学への興味・関心を持てるよう、付録・資料も充実しています。

「文学国語」では、「読むこと」(一〇〇～一一〇単位時間程度)に加えて、「書くこと」にも三〇～四〇単位時間程度をあてており、「書くこと」によって自らの言葉に対する感性を磨いていくことが目指されています。本教科書には、課題に基づいて文学的文章を書く、「書

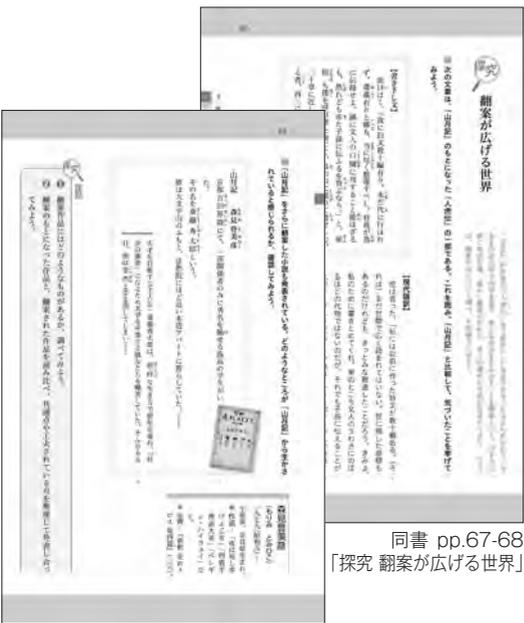
く」というページが設けられました。また、書く活動の参考となるよう、作家による文章が〈名文案内〉として紹介されています。「書くこと」は、自分のものの見方や考え方を客観的・分析的にとらえる契機となるでしょう。

## ■授業の構想にあたって

新しい単元は、これまでの単元と何が違うのか――。たとえば「山月記」について、『精選 現代文B 新訂版』の教科書では「人虎伝」の一節を掲載し、比較読みをすることで作品の理解を深めさせようとしています。一



『文学国語』 p.118 「情景を描写する」



同書 pp.67-68 「探究 翻案が広げる世界」

方、『文学国語』の新教科書では、そこからさらに翻案作品の魅力について考える探究課題が設定されており、作品の読解を深めるだけでなく、翻案という文学的手法について考えさせる流れとなっており、ここには違いがみられます。

授業の構想にあたっては、「教科書の流れに従って進めてみよう」と考える場合もあれば、「教科書を最大限に活用してオリジナルな授業を展開しよう」と考える場



文学国語 (文国704)

# 多彩な表現世界に親しむための「文学国語」新教材

たかはしたつお  
高橋龍夫

専修大学教授

## 新たな角度から日常を描く現代作家たち

新たに設置された科目「文学国語」では、従来の「現代文B」に掲載されていた「山月記」「こころ」「檸檬」「舞姫」などの定番教材に加えて、現代作家の随筆や小説を多数掲載した。特徴的なのは、生徒たちにとっても身近な日常的光景を新たな角度から表現している点である。

まず取り上げたいのは、随筆「飛ぶことを知っている魂」(梨木香歩)である。筆者が体験した鳥のエピソードから、コロナ禍にある今日の困難な状況において、飛ぶことへの入念な準備期間として経験値を積み重ねてほしい、という筆者の願いが綴られている。授業では新学期当初に扱うことが想定されるが、教科書教材が「今」そのものを話題としていることから高校生もこの教材の内容を自身の問題として捉え、「文学国語」への関

合もあるでしょう。生徒たちに、ねらいとする資質・能力を身に付けさせる道筋はひとつではありません。

単元の扉には、それぞれにねらいとする資質・能力が明示されているため、ねらいを確認した上で目の前の生徒たちに適した教材を選択したり、新たな教材を追加したりすることができます。学習指導要領の改訂によって、教材ありきの授業づくりから身に付けさせたい資質・能力を育成するための授業づくりへと転換したことで、より柔軟な授業構想が可能になったといえます。

## ■おわりに

他者によって書かれた文章を読む際、前提として理解しておかなければならないのは、相手の文脈が自分の文脈とは異なる可能性がある、ということ。文学国語の授業では、現代日本の文章だけでなく、文化的背景が異なる翻訳文学や、日本の古典作品を読む機会もあるでしょう。その繰り返しを通じて、生徒たちは自己を相対化し、文脈を読む力や、他者の論理で物事をとらえる力も身に付けていくこととなります。

現代は情報化社会であり、生徒たちは瞬時にさまざまな情報に触れることができます。そのため、授業をしていても「じっくり考えるよりすぐに答えが知りたい」と

いう本音が見え隠れする場面が少なくありません。表面的に何かを理解させるのではなく、生徒たち自身で、考えることを諦めずに深い理解に到達するようにうながすためにはどうすればよいか、自問しています。

この問いに対して、これまでの経験からひとつ実感していることは、「考える楽しさを知っている生徒は考え続けられる」ということです。

「教室のみんなで納得する読みができた」「考え続けてようやくわからなかったことがわかった」という喜びを経験したことのある生徒は、比較的「考え続けること」への抵抗感が少ないように思います。

国語教育で従来行われてきた作品を吟味する話し合い活動は、生徒たちに「考える楽しさ」に気づききっかけを与え、「考え続ける力」を育成する一助となるでしょう。〈比較〉や〈探究〉といった取り組みを通じて作品を多角的にとらえる新しい文学の学びは、生徒の読みの世界をより豊かにするはずで

す。授業の中で考えるという行為は、人から与えられた課題を解いていることに過ぎません。しかし、その過程で教室にいるひとりひとりの中に新しい文学の学びが生まれ、生徒たち自身がそれを育んでいけるような文学の授業をひらいていきたいと考えています。

心も高めることができよう。一旦白紙状態になって滅多にない体験を楽しむ、というユーモアも忘れない筆者のメッセー

ジには勇気づけられる。小説「旅する本」(石田衣良)は、本が

さまざまな人々の間を旅する場面が織り成す幻想的な物語である。職を失った男が本に出会い、自身に似た境遇の物語世界に救われ現実世界に耐える力をもらう話、愛犬を亡くした少年がある男の子と一生を送った犬の幸福な物語に出会い、悲しみが癒やされる話、失恋した女性が偶然拾った恋愛小説に魅せられ、読み始める話——本が読者の想像力を喚起しつつ、人々を魅了し慰撫していく。日頃、視聴覚ツールに馴染んでいる高校生に、「読む」ことで心奥を揺さぶる本の魅力をぜひ、追体験させたい。本作はホルヘ・スの幻想小説からイメージされたとい

う。「読者の心にしみとおり、その人を深く目覚めさせる小説」を仕上げたいという筆者の創作意図を述べた「展開」も活用すれば、小説の方法や成立背景に着眼する契機となるだろう。

同じく現代小説の「鍋セット」(角田光代)は大学進学から始まる物語である。初めて一人暮らしをする娘と、アパート探しに付き添った母親が登場する。不動産屋から紹介されたみずすばらしいアパートに主人公は意気消沈するが、付き添った母親があれこれ慰めることでかえって苛立ちや反感を抱く。

自立を目前にしての不安と甘え、反発と淋しさなどが入り交じる主人公の内面が、母へ向けた言葉や態度に巧みに表現される。最後に母が買い与えた鍋セットは、後に「いったいなんだったんだろう」と思うことになるが、母から娘への思い



新編 文学国語 (文国705)

# 現代文も古典も書く力も これ一冊で

たかくさ まちこ  
**高草真知子**

東京成徳大学特任教授



『新編 文学国語』 pp.264-265 「若紫」

が定められたものであることは間違いない。結局、卒業後も仕事にも利用し、結婚後、家庭でも使い続け、使い古されても鍋セットを手放すことをしない。

ある道具を介して人間のドラマが展開するこの作品は、短編小説の読み方を学ぶのに格好の教材と言える。鍋セットをめぐって主人公と母との思いを捉えることはもちろん、大学時代から家庭を持つ時期までの長いスパンにおいて、日常的な光景や日々の営みの中に、さりげなく母から娘への世代の継承の姿が書き込まれていることを読み取らせたい。

「桔梗くん」(川上未映子)は、二人称を巧みに用いた書簡体小説である。手紙の文体の中に、十代の淡い恋愛の思い出、大人になってからも毎年見る不思議な「あなた」の夢、そしてその夢と無関係なはずの「あなた」の妻から届く不吉なメールの存在が「あなた」に向けて明かされる。手紙というツールは相手との距離を感じさせるものだが、主人公の過去の思い出、無意識が織りなす夢、そして見知らぬ相手から届くメールと、いずれも主人公の意識から距離を感じさせられる。その一方で、「あなた」へ語りかけ

る二人称の活用が読者にも妙な話に親近感を抱かせる巧みな構造を持つ小説である。

手紙の最後には作者の署名が置かれていて、あたかも実体験を綴ったかのような独特のリアリズムがあり、謎かけのように読者に幾重にも想像させる仕掛けが施されている。授業では、まずは淡い恋愛感情が二十四年も経て不気味な物語として立ち上がる不可思議な展開を押さえたい。その上で、書簡体の特徴や表現効果、主人公の独白と二人称の効用、タイトルの意味など、文体や構造について生徒の発見を活かしつつ、表現自体への認識を深めさせたい。

## 翻訳によって拓く世界

『月の誤訳』(多和田葉子)は、日本文学をドイツ語に翻訳する中で、日本語の原点や文化を再発見する営為を、両言語における「月」のイメージを例に挙げながら丁寧に表現した随筆である。

授業では、一つ一つの例を整理しつつ、言葉への豊かな感覚を理解させたい。バイリンガルの筆者ならではの言葉をめぐる鋭い感性と暖かい眼差しは、高校生に

とって、翻訳への新鮮な関心を抱かせ、日本語に対する認識も新たにできる機会となる。

翻訳文学としては「錠の門」(フランツ・カフカ)が新たに掲載された。自分自身の中にある主体性を阻むなにかを門番に諭え、門の中へは一歩も踏み出せないまま年老いて死んでいくという寓話である。受け身のまま勇気を持ってない人間の精神的な弱みや不条理性を諭えているとも、社会、宗教、文化、民俗などの領域において、人間の生き方を束縛する内面化された法や戒律、因習、価値観などを諷諭しているとも、様々な観点から寓意を捉えることが可能な、高度な読みを促す小説である。

門といえば、門の下で勇気が出ずに途方に暮れていた「羅生門」の下人も想起され、「羅生門」との比較読みも可能だろう。ちなみに、カフカの名作「変身」と「羅生門」が同じく一九一五年に発表された作品であることも興味深い。翻訳を通じて、読書への関心を日本文学から世界文学へと拓いていきたい。

## 『新編 文学国語』で古典の授業を

『新編 文学国語』は、近現代の小説・詩歌はもちろん、竹取、伊勢、源氏、平家物語などの名場面や、枕草子、方丈記、徒然草の有名な章段、漢文の「四面楚歌」なども採録しています。しかも、どの作品も見開き二ページでコンパクトにまとまり、傍訳と美しいイラスト入り。わかりやすい「作品解説」もありますので、授業がしやすいと思います。

時間数の関係で「古典探究」の授業が設置できなかったと悔しい思いをされている先生方、ぜひこの教科書を使って古典の名作に触れさせてください。

## ■文学を学ぶ初めの一歩に!

「現代文の授業、どうしたらいいんだろう」と悩んでいる先生、いませんか。実は私がそうでした。高校の先生になりたてのころ、「古文や漢文はだいたいやることが決まっているからいいけど、小説や詩歌はいいたいどう



『新編 文学国語』 pp.34-35  
「言葉でスケッチ① 一言で心をつかもう」



『新編 文学国語』 p.283  
「短歌・俳句の構成と表現」

エッセイ、手紙、川柳、俳句、ショートショートを経て、物語創作につながります。作品例や書き方の手引きもありますので、その流れに沿って書いていくと、いつの間にか完成しそうな予感がします。

最終課題は、「名曲から物語を書こう」。ここでは、中島みゆき「糸」の歌詞（教科書「恋のうた」に採録）を讀

しよう：」と、日々悶々としていました。そしてそれは、年をとっても変わりませんでした。

そんな先生のために開発したのが、「文学の扉を開こう」というページです。ここでは、小説を読むときに押さえておきたいポイントを「羅生門」を例にまとめていきます。場面設定や場面の展開、心情・情景描写など、ふだんの授業で取り上げる基本的な事柄を、図示したり、本文にマーカーで線を引いたりして、視覚に訴えて示しています。また、詩、短歌・俳句の単元でも、構成や表現の特徴、味わい方について、具体的に整理しています。

いわばスキルの要素なのですが、これを学んでおくと、視野が広がりますし、より深く、より楽しく作品を味わうことができます。授業の前にこのページを開いて確認してもいいですし、必要に応じて振り返るとい

もいいでしょう。生徒と先生の間にも共通の認識が生まれ、授業を進めやすくなるはずですよ。

■「ことのは」で言語感覚を磨こう  
また、ミニコラム「ことのは」も、魅力的なコーナーです。「比喩」「オノマトペ」「文体」など、言葉に関する九つの記事が、教材に合わせて短くまとめられています。小説を語ったと、つい読解に熱中しがちですが、作品を言語表現の面から客観的に見つめ直すきっかけになります。

たとえば「役割語」。役割語とは、「わたくし：ですわ」（お嬢様らしさ）、「わしは：じゃ」（老人らしさ）のように、現実に使われている言葉遣いというよりも、いかにもそれらしい印象を与える言葉遣いのことを言います。小説、漫画、ドラマなどから役割語を探し、人物像や作者の意図などを想像してみるのも楽しいかもしれません。

■ワンフレーズからショートショートまで  
「文学国語」の学習指導要領には、「文学的な文章を書く」という文言があります。でも、「文学的な文章」など、一朝一夕に書けるものではありません。そこで、この教科書では、段階的に無理なく取り組めるような創作単元を作ってみました。

まず、写真やイラストに添えるキャプションに始まり、

み、そこから発想を広げて、オリジナルの物語を作りまします。「糸」でなくても、自分の好きな曲を選んで書いてもいいですね。もし授業中に書く時間が取れない場合は、長期休暇の課題にはいかがでしょうか。そして、書き上がった作品を一冊にまとめ、クラスの作品集にします。記念に残る作品集になると思います。

■定番はもちろん、人気の現代作家の教材も

『新編 文学国語』には、高校の定番教材、「山月記」「こところ」「ナイン」「靴」「山椒魚」はもちろんのこと、現代作家の新教材も豊富に採録しています。

たとえば、随想では、村上春樹、角田光代、畠中恵、川上未映子、梨木香歩……。小説では、江國香織、三浦しをん、西川美和、辻村深月、川上弘美、朝井リョウ……。名前を見ただけで、すぐに手に取って読んでみたくなりませんか。

さらに、評論も載せています。高階秀爾「夏の月」と穂村弘「共感と驚異」です。

「夏の月」は、月を愛した清少納言、阿倍仲麻呂、李白の詩歌と上村松園の名画を紹介し、「共感と驚異」は、短歌が人を感動させるために必要な二つの要素について述べています。二作品とも、日本文化と日本文学の奥深さを堪能できる名評論と言えるでしょう。



# ようこそ、「文学国語」の授業へ

いしはらのりこ  
石原徳子

神奈川県立多摩高等学校教諭

## 文学の世界へ誘う巻頭随想

第一部第一單元「明日をひらく」は、新学年を迎えた学習者を「文学国語」の世界に歓迎する單元である。「少なくとも最後まで歩かなかつた」(村上春樹)では、「たとえそれが実際、底に小さな穴のあいた古鍋に水を注いでいるようなむなししい所業に過ぎなかつたとしても、少なくとも努力をしたという事実は残る」というぐあいに、村上ファンにはおなじみの味わい深い比喩を用いた軽妙な文体で、氏の人生観が語られる。「そとみとなかみ」(角田光代)では社会的で前向きな「外側の私」とは大きく隔たる「内側の私」を、「知られないように、悟られないように息を潜めて」いたという高校時代が語られる。いずれも、努力の先にあるものが見えなくなっていたり、「内側の私」を持って余したりしている高校生

へのメッセージとして届けたい。

授業では、本文の中で共感したことを発表したり、気に入った表現を共有したりすることのほか、自分が熱中していることや熱中したいことを発表するのにもよい。あるいは、「文学」に触れることの意義を、これらのエッセイをきっかけにして考えてみてはどうだろう。新科目「文学国語」の授業開きにピッタリだ。

## 文体の味わい

「文学的な文章を書く」授業で大変難しく、しかもとても楽しいのは、「何を書くか」だけでなく「どう書くか」を考へることだろう。書くことを想定して小説を読むと、書き手が凝らしている、さまざまな工夫が見えてくる。「晴れた空の下で」(江國香織)では、語り手の「わし」と亡くなった「婆さん」との時間の

語りにおいて、「ぼつくりと黄色い玉子焼き」や、「ぼとぼと、快い音をたてて」

注がれる緑茶など、印象的なオノマトペが多用される。一方、現実の世界で「わし」の世話を焼く次男の嫁に関しては、「あかるい声」「やさしくこたえる」のよゆうな一般的な描写に留まっている。「わし」が現実に戻ると、「手鞠麩のようにやわらかくて、玉子焼きのようにやさしい味がした」妻は消え、嫁に「お味、薄すぎませんでした」と明るく尋ねられるのが切ない。最後に冒頭の一節が繰り返されるのも、その主語が「わし」から「わし」になっているのも切ない。

「ぼくのお母さん」(川上未映子)も、文体に大きな特徴をもつ作品だ。「風には、季節の、それから食べ物の、夕暮れの、悲しい感じの、色んな匂いがまじじいでいて、言葉にしてそう思うとそれだけ

で涙がにじんでくるのだった」と、浮かんで流れていく独り言のような文の後に、「変だね」という三文字が投げ出され、絶妙な緩急のリズムを作っている。本文は、帰ってこない母親を待つ兄妹との交流を通じて、子どものころの記憶がよみがえった、という(だけの)内容だが、作者の「大阪弁」が兄妹との距離を一気に詰めたのと同様、方言を含む語りのリズムが読者の心にも迫る。古文の「源氏物語」や「蜻蛉日記」などは、一文がつながって最初読みにくいのが、慣れるとその文体によって作者の息づかいを「感じられる」ようになる。同様に、川上氏の作品も身体性の高い文体だと思ふ。

文体や言葉の選び方がどのような効果をもたらすか、これらの作品で確かめてから創作するという授業展開はどうだろう。「読むこと」と「書くこと」の学習効果が相乗的に現れ、生徒の「文学」の世界が立体的になることが期待できる。

## 文学と社会

新型コロナウイルス感染拡大の「混乱」で痛感したのは、「非日常」はすぐに「日常」になるといふことだ。これは人間に必要な

な適応能力だが、本質を見る目は曇りやすいともいえる。文学が社会と切り離せないのは、文学に触れることで、この「曇り」に気づくことができるからだ。

本書の新教材では、「身内ほど厄介なものはない」(米原万里)で文化相対主義的な視点を、「クルミの小部屋」(河野裕子)で家族の中にある個人を、「神去なあなあ日常」(三浦しをん)で自然と人間の在り方を再発見できるだろう。

ここでは特に戦争を題材にした「その日東京駅五時二十五分発」(西川美和)を取り上げる。新潮文庫「あとがき」によると、広島に生まれた作者は「とてつもなく悲惨な情景や体験」を聞かされ、「知るもの／知らぬもの」の壁を感じ続けて育つたために、「自分には、戦争にまつわる創作などは未来永劫、関わる資格のないもの」と思っていた。ところが、この作品のもととなった伯父の手記を読み、戦争当事者の中に存在した「軽やかさ」のようなものを「新鮮な発見」としてとらえたという。

「国家とか民族とか、そんなものにはぼくの関心も無い。(中略)必死で兵隊面をして頑張っているただの飛行機狂い

だ」という普通の青年が、「ぼくはこれでも国を愛しているのだろうか?」と自問し、空襲で燃えている空を見た時に「(ひとの生活や記憶の全てが筆著注)まるで無意味なものかのように、存在自体を無用と断定するように、生きたまま根こそぎ滅ぼされていくのは、たまらない。たまらないのだ。このぼくだって」と自答する。戦争が日常となり、なぜ戦うのか、国が負けるとはどういうことか何も考えず、そうしろと言われたからそうしていたにすぎない、「普通」の青年の言葉だからこそ、この「たまらない」という言葉が重く響く。

授業では、他の作品と比較して読み、考えを深めた上でこの作品の書評を書く活動をしてみたい。例えば映画「風立ちぬ」(宮崎駿 二〇一三)も飛行機狂いの青年、堀越二郎とゼロ戦をめぐる物語だ。善良な市民が、気づかぬうちに巻き込まれる「非日常」を作り出すのも「社会」なのだということを、「時代のせい」という思考停止に陥らせず気づかせてくれるのも「文学」なのである。



# 表現力を培う・表現を楽しむ

## 『国語表現』二つの学び

ふじもりゆうじ  
藤森裕治

文教大学教授

### 一 大修館『国語表現』の二大コンセプト

「表現力を培う」と「表現を楽しむ」。これが大修館『国語表現』の二大コンセプトです。このコンセプトに基づき、本教科書は二部構成となっています。もちろん、第一部を学習してから第二部へという順序を設けたものではありません。先生方の授業スタイルや各学校の教育課程、そして年間行事予定などを踏まえ、両者を往還しながら進めていただけるように構成したものです。

第一部には、生徒が社会人となったときに必要な表現力を育て鍛えるための単元と素材とが集めてあります。

実社会に生きて働く資質・能力のことを「社会人基礎力」といいます。二〇〇六年に経済産業省が提唱した能力で、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を軸に、一二の能力要素から構成されています。それらの中で『国語表現』と深くかわる力には、「発信力・傾聴力・想像力」などがあります。こうした言葉

の力を培う三種類のレッスンが用意されています。

第二部には、教室が笑顔と生徒の声にあふれるためさまざまな活動が集めてあります。すべて、言葉による言葉の「遊び」です。

遊びには「楽しさ・やる気・象徴性・能動性・任意性」などの機能があり、人は、遊びに没頭しているときに脳が最も活性化し、能力を開花すると考えられています。こうした機能を踏まえ、『国語表現』にとって価値ある一三種類のメニューが用意されています。

### 二 社会人基礎力としての表現力を培う第一部

第一部にあるレッスンは、基本的に教科書上部に具体的なレッスンの課題と素材が、下部に学習のポイントが掲載されています。レッスンの合間には、言葉と表現のあり方を考える上で参考となる著名人の文章や、課題を応用するための図版やデータを掲載しています。

「1言葉と出会う」のレッスン3は、「相手に応じた言

葉遣い」を学ぶ活動です。ここでは和語・漢語・外来語などの語種、話し言葉と書き言葉の違い、待遇表現が取り上げられています。例えば敬語の使い分けとして「会計については受付で伺ってください。」「足元に気をつけてご乗車してください。」といった誤用例が示され、これらを適切に言い換える課題があります。

「2伝える、伝え合う」のレッスン1は「自己紹介ゲーム」です。マス目に話すテーマが書かれたサイコロを振り、出た目のテーマ（例えば「こう見えて、実は○○なんです」「私の大失敗」）に沿って自己紹介をする活動から始まります。ついで、級友にインタビューをして他の人に紹介する「他己紹介」へと展開し、ユーモアを交えて



『国語表現』p.36「自己紹介ゲーム」

自分や級友を適切にかつ豊かに伝える技術と自信とを育てます。

「3小論文・レポート入門」では、小論文を書くための基礎基本からレッスンを始め、課題型・データ型・テーマ型といったタイプの小論文・レポートの作成方法を学びます。想を練るための図版資料も可能な限り掲載しています。その上で、レッスン7「論文を書く」では大

学でも通用する論文執筆の作法が案内されています。

「4自己PRと面接」は、自己分析から自己推薦書の執筆、そして面接に至るまで、実際の進路指導に活かせる言葉の表現活動が並びます。特にレッスン7「グループディスカッションをしよう」では、近年、多くの推薦入試や就職試験で採用されている集団面接を踏まえた活動が用意されています。

今回の教科書では、言葉による表現の場を大きく拡張しています。「5メディアを駆使する」では、手紙、通知、電話、電子メールといった従来からあるメディアに加え、電子掲示板、オンライン会議、チャット、SNSまで視野に入れたレッスンを配列しています。

「6会話・議論・発表」も、実用性をとことん追究しています。レッスン1は、レストランでのやりとりを素材に、敬語の使い方がめちやくちやな店員の言葉遣いを



修正する活動です。また、レッスン4ではプレゼンテーションの工夫について学びます。プレゼンテーション能力は必須の社会人基礎力です。スライドを効果的に使って印象に残る発表をする力を鍛えます。

### 三 遊び心で表現を豊かに楽しむ第2部

第2部は、趣向ががらりと変わります。第1部は単元ごとに段階と順序性を意識したレッスンを配列していますが、第2部にあるさまざまな活動は、どこから始めてもかまいません。配当時間も教室の取り組み具合によって柔軟に対応することができるようになっています。

その中でも、「一言葉で遊ぶ」は「国語表現」の学びを楽しくさせる活動を「てんこ盛り」しています。例えば「折句」のページでは、「からころも……」の和歌や兼好法師の手紙など、古今の折句を紹介し、自分でも作ってみようと誘っています。この遊びと第1部にある「ネット社会との付き合い方」とを連動させ、SNSの留意点を折句にする活動を行ってみてはいかがでしょうか。筆者が実際に大学の授業で試したところ、次のような傑作が提出されました。「味しみ大根」の折句です。

- 【あ】せらず、短絡的に反応しない。
- 【じ】ぶんはどう思っているのか確かめる。
- 【し】んらいでできる情報なのか、まずは疑う。

【み】んは どう考えているのか調べる。  
【だ】れが発信源の情報なのか確かめる。  
【い】つの情報なのか確かめる。

【こ】んきよがはつきりとしているか調べる。  
「3日常生活の正しい過ごし方」も生徒を楽しませる活動です。伊丹十三「目玉焼きの正しい食べ方」を参考素材にして、「冬の朝の正しい洗顔法」「布団からの正しい抜け出し方」など、自動化している日常生活の行動を取扱説明書風に書いてみようという遊びです。

「13開廷！模擬裁判」は、二〇〇九年に始まった裁判員制度を踏まえた単元です。教室を法廷に見立て、本物の裁判でやりとりされるスク립トに合わせて大きな判断を下すシミュレーション・ゲームとなっています。

### 四 充実した学びの共同体に向けて

「国語表現」の学びは、先生と生徒たちとの明るく建設的な対話によって織りなされる学びです。先生もまた一人の学び手となり、時には生徒たちと頭をひねりながらよりよい表現者となる日々を送っていたきたいと願っています。そこに生まれる学びの共同体は、生徒たちの人生に深く永く影響を与えるに違いありません。『国語表現』がそのための媒体となることができれば、そこそが本教科書を編集した私たちへの最大の報酬です。

## 国語表現 (国表70)

# 表現する楽しさを教室に

やまぐちまさずみ  
山口正澄

東京都立大江戸高等学校教諭

新しい「国語表現」の教科書では、魅力ある教材が多数掲載されている。この科目の履修対象になる生徒像を鑑みると、学習面や対人面での課題を抱える場合も想定される。そういった多様な高校生たちに対応して言語活用能力を育み、さらには小論文や志望理由書・履歴書などを書く学習、面接練習やスピーチなどの話す・聞く学習によって、上級学校進学や就職への進路実現につなげる教材が揃っている。それらと共に掲載された新教材のうち、三つの力に着目して本稿で紹介したい。

### 伝える力と伝え合う力

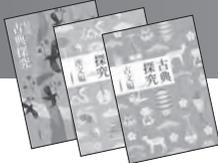
まず、「自己紹介ゲーム」から二つ挙げる。この教材には、他者と言葉で伝え合う対話活動にゲーム感覚で取り組める

という特色がある。「サイコロ自己紹介」では、サイコロの各面に紹介テーマを書き、振って出たテーマで自己紹介をグループ内で行う。偶然性による楽しさや程よい緊張感が生まれ、一巡した後にもっと知りたい内容を話し合うこともできる。事前に紹介テーマ自体を相談で考えさせてもよい。「他己紹介をしよう」では、ペアで質問し合い、聞き出した情報をクラス全体で紹介する。相手に配慮した聞き方や、伝わりやすい話し方を意識した活動に取り組める。紹介するときの工夫として、相手が否定的なニュアンスで述べた内容を長所に言い換える表現活動もできる。

来事を伝えるニュースの原稿を書く活動である。伝えたいテーマに沿って材料を集め、事実を客観的に伝えるため、5W1Hに注意して情報を整理する。このときに「事実と意見」を区別させることが重要になる。生徒によっては、主観と客観の区別が課題になることもあるだろう。自分で書いた文章から、その区別や整理した情報の妥当性を考えさせることもできる。最後は原稿を読み上げて発表することで、クラス全体の伝え合う力の育成にもつながる。

### 自分を見つめる力とアピールできる力

先述の自己紹介の学習によって身につく力は、将来的な進路活動の中でも生かせる。それを具現化していく学習として、「自己推薦書や学修計画書を書く」があ



る。この教材より前に置かれた、自分を見つめるためのライフチャートをまとめたり、長所・短所を書き出したりして客観視するレッスンとつながるとより効果が高まる。志望先ごとの提出書類の特徴を理解することから始めるが、共通するのは志望理由と自分の長所のアピールである。書く材料の吟味と練り上げを重ね、読む人の立場を考えて書かせる。これまでの体験や取り組んできた活動内容を文章化して、志望先でやりたいことを明確に伝える表現力を育成する。書き上げた後に生徒相互で読んで評価し推敲させることで、より主体的で対話的で深い学びになる。今後の進路活動に役立つ要素を、計画的に増やしておきたい。

建設的に話し合う力と発想する力

教科書の後半には、「表現を楽しむ」と題して、表現することへの興味と意欲が高まる複数の活動を掲載している。短い時間でも単発で取り組める活動から、複数の要素を組み合わせた総合的な活動まであるが、その中から「無人島で生き残り」を紹介したい。海を航海中に嵐に襲

われて無人島に漂着したという設定で、どうやって生き延びていくかの方法を考えていくグループ活動である。主体的かつ協働的に課題を解決するためのグループエンカウンターとしても行われるが、「国語表現」で学習して身につけた力を総合して活用し取り組める教材にもなる。以前に私が勤務校の総合的な学習の時間で取り入れたときには、協働に重き



『国語表現』 pp.192-193 「無人島で生き残り」

を置いた生徒同士の関係の構築を主たるねらいとしたが、国語の授業で扱う際には、建設的な話し合いと柔軟な発想ができる力の育成を図る言語活動として行いたい。

以上、新教材から三点取り上げたが、多様で幅広い学習層がスムーズに活動できるように、工夫を凝らして編集された教材がこれ以外にも満載である。また、表現活動に生かすための文章教材は、「表現への扉」や「参考」として各単元に掲載されている。この教科書では、外山滋比古、金田一秀穂、辻村深月、小川洋子、芦田愛菜、糸井重里、又吉直樹、森絵都らによる文章が新しく掲載された。生徒の表現方向上のために、これらの文章に積極的に触れることも有効である。

来年度からの「国語表現」では、表現する楽しさを感じさせながら、実社会において必要な国語の知識や技能を、生徒の実態に即して身につけさせたい。

古典探究 古文編・漢文編 (古探706・707) 精選 古典探究 (古探708)

# さまざまな探究へいざなう教科書、 古典探究

おおくらひろし  
大倉浩

筑波大学教授

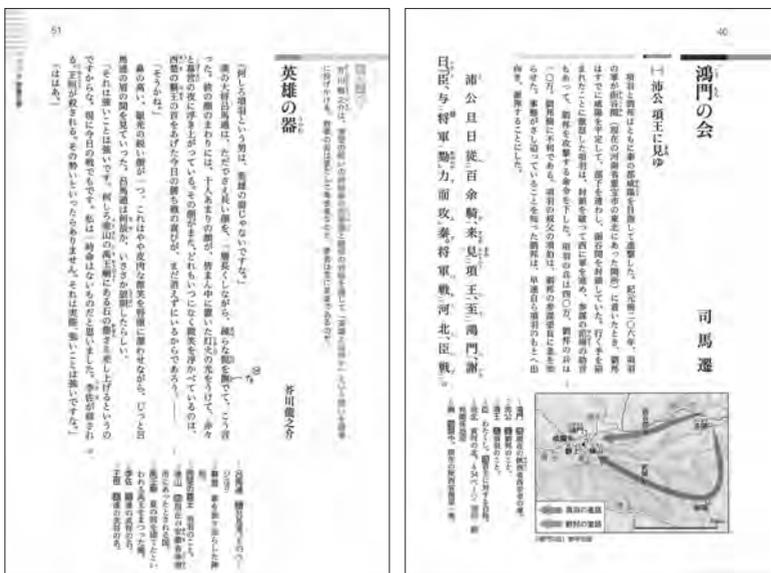
「言語文化」において、古文と現代文、古文と漢文などの比べ読みを経験してきた生徒さんたちが、古典教材を起点として様々な探究学習を本格的に展開できるように『古典探究 古文編・漢文編』『精選 古典探究』を編みました。

表紙裏には巻頭図録として、古文・漢文の主な教材のキャラクターやことばをちりばめた「歴史絵巻」(古典を探究①)があります。探究のテーマのヒントを見つけるための口絵ですが、この「古典探究」のコンセプトでもあります。個々の古典作品が大きな文化史のつながりの中で古典として伝わってきていること、そしてその最後にはスマホを使う高校生の男女、つまり現在の生徒さんたちが描かれていて、この「歴史絵巻」を受け継ぎ、未来に伝わる立場でもあることもイメージしています。



『古典探究 古文編』『精選 古典探究』前見返し  
「古典を探究①」

次のページでは、まとまってきたテーマを実際にどのように探究していくか、「菅原道真」を具体例にして、生徒さんが自分でも探究活動ができるよう、図書館などの施設、インターネットなどのツールなどを紹介しています(「古典を探究②」)。道真という人物の探究もあれば、



〔左〕『古典探究 漢文編』 p.51 「精選 英雄の器」  
 〔右〕『古典探究 漢文編』 p.40 「精選 鴻門の会」



同書 前見返し3 「古典を探究②」

彼が残した和歌や漢詩文などの作品の探究、彼が後世「学問の神様」となった伝説の探究など、様々な展開を、注意事項(△)とともに提案しています。もちろんこれにとらわれず、教室で先生方のサポートのもと、生徒さんが個人やグループで、ワクワクしながら探究学習を進めていくことを願って加えたページです。

さらに目次の前に、様々な図録を巻末の付録部分にまとがって多く掲載しています。その中にも「古文の人々」として平安時代の人物関係図があり、漢詩文の作者・作品の関係を立体的に捉えた「詩文関係図」、年表に漢文

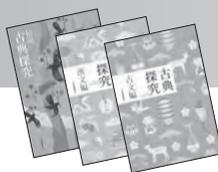
と日本文化の関係を落とし込んだ「漢文と日本文化」など、探究のテーマや糸口になるような情報を図表に盛り込んだ工夫が満載です。

そして目次を見ていただくと、掲載する教材自体は現在の古典A・Bと重複しているものが多いので、新味がないと思われるかもしれませんが、そんなことはありません。ぜひ古典教材に挟み込んだ「視点」、「読み比べ」にご注意下さい。例えば、古文編第I部1説話には、小式部内侍が当意即妙の和歌を詠んだという「十訓抄」「大江山」の逸話を古典A・Bに引き続き掲載していますが、その後に、歌枕「生野」を探究した現代の梨木香歩さんの紀行文と、江戸時代の浅井了意の『東海道名所記』とを、「視点」として掲載しています。現在までの約千年間に、「大江山」の和歌が古典として、江戸時代や現代の作家にどんなインパクトを与えたのか、そのつながりを知ること、古典に対する新たな視点が開けてくると思います。

また、漢文編第I部3史伝には、これも有名な『史記』「項王の最期」の後に、芥川龍之介「英雄の器」を「読み比べ」として掲載しています。「言語文化」でも経験した比べ読みを、史伝と芥川作品とによって教室でじっくりと取り組むことができると思います。

それ以外にも、各教材の後にある学習のポイントの中に、たくさんの「探究」課題を設け、コラムにあたる「古文・漢文の窓」、読書案内を中心とした「豆知識」も配置して、読解のさらなる展開になるよう工夫しました。もちろん、読解の基礎となる単語や文法・句法の学習についても、これまでの古典A・B以上に丁寧な注釈や解説を付けて基礎固めをはかっています。

この教科書によって、個々の教材を、共通する文体やジャンル、テーマによって結びつけた「言語文化」の学びを発展させ、教材と教材とを結んだ線を使って時間軸の中で捉え直し、より太い線としたり、同時代という面に視点を拡大して様々な作品を読み比べたりと、生徒さんの学びが探究活動へと発展することを、編集者一同、心より願っています。



古典探究 古文編・漢文編 (古探706・707) 精選 古典探究 (古探708)

# 「古典探究」の教科書

## どう使う？

たけしまち 竹島千春

東京都立南多摩中等教育学校教諭

一年後に始まる新しい選択科目「古典探究」は、必修の「言語文化」の後、古典を主体的に読み深めることを通して、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する科目である。新しい指導要領では「伝統的な言語文化に対する理解」(1)が強調され、新たに「必要に応じて古典の変遷を扱うこと」(3(2)ウ)が加えられた。また、言語活動例として「同じ題材を取り上げた複数の古典作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする」とある。

大修館書店『古典探究 古文編・漢文編』(以下「分冊版」)『精選 古典探究』ではこれらの点に注目して編集を行い、古典の探究方法(表見返し[1]~[4]ページ)を紹介し、各教材の学習のポイント「探究」

部分では、調べたり考えをまとめたりして、主体的・発展的に取り組む課題を配置した。ここでは大修館書店の二種の「古典探究」に新しく掲載された教材を取り上げ、その特徴や扱いについて述べてみたい。

### 共時的・通時的な読み比べ教材

『徒然草』「花は盛りに」については、江戸時代に本居宣長が『玉勝間』で批判的に取り上げたことが広く知られる。本書でも、まず「花は盛りに」の主張を読み取り、その上で宣長の批判を整理することを目指した。

次に、発展的な読み比べとして「花は盛りに」『あだし野の露』を改めて読み、兼好法師なら宣長の批判にどのように答えるか想像するという課題を置いた。こ

れによって双方の批判が可能になり、

他者の立場で論を展開するという一段上の能力を培うことができる。デイベートのような活動を行うこともできるだろう。また、同ページの「豆知識 江戸時代に誕生した国学」を読んで、「国学」や宣長の研究について調べるなどの探究学習につなげることも可能である。

さらに、「視点」として採録した教材、尼ヶ崎彬「幽玄 想像された美」によって、兼好の主張が鴨長明や藤原定家の美意識を受け継ぎ、世阿弥とも共通することに注目させる。分冊版の同ページ「豆知識 読んでみよう」では、谷崎潤一郎『陰翳礼賛』、高階秀爾「日本人にとって美しさとは何か」などを紹介。生徒が現代人の美意識にも触れ、考察できるようにした。

このように、「読み比べ」や「視点」などを通して生徒が日本の言語文化の共時的・通時的な広がりを知り、古典の世界と現代とのつながりを自ずと実感できるように仕組みになっている。

### 生徒も楽しい読み比べ教材

古典の中でも特に親しまれ、古典芸能や絵画の題材にもなった『伊勢物語』。それを江戸時代に書名も含めて徹底的にパロディ化した『仁勢物語』。分冊版では二つを見開き各一ページに配置して対比しやすいようにした。『伊勢物語』の雅な世界に、色好みとはいえ多少かしまった上品さや疎遠さを感じていた生徒は、『仁勢物語』の真逆ぶりを痛快に思い、古典に親しみを覚えるに違いない。『伊勢物語』全編がパロディ化されていると知れば、もっと読んで比べてみたくなるだろう。

『伊勢物語』の既習の章段をグループ毎に分担し『仁勢物語』の章段を調べて発表する、または現代語でパロディ化した文集をつくる、さらに『仁勢物語』の面白いパロディ例紹介のワークシート集

をつくる、など様々な活動が考えられる。

### 漢文の受容史がわかる

指導要領には「我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること」(2(2)ア)とある。そこで、「漢文と日本文化」(表見返し[1]~[4]ページ)でその関係を年表や多くの作品を用いて可視化するとともに、探究的な課題を設けた。

「漢文の窓 漢文と日本人」では、漢籍伝来以降の漢文の受容と展開を解説し、近代の漱石の漢文素養を紹介。また「漢文の窓 日本における『史記』の受容」では、『枕草子』『大鏡』から『太平記』、近世の青本や現代の漫画までの『史記』とのつながりを示した。

さらに、『白氏文集』『長恨歌』の後に、『源氏物語』や『枕草子』『更級日記』の関連する文章を置き、『白氏文集』と日本文学との密接な関係がわかるようにした。また、分冊版では新たに『俊賴髄脳』『楊貴妃がことを詠める』を採録し、両者の読み比べを行うとともに、他作品についても調べるなどの探究課題を設け

た。玄宗と楊貴妃の物語の、ジャンルや時代を越えた広がりが見られるようになっていく。

### 古典の多様性や奥深さへ

日記教材の後には、読み比べ教材として林望の「日記と日本人」を採録した。それによると、日本の日記は表記、文体、構成、題材などによって様々な様相をもち、ジャンル分けの境界は限りなく曖昧であるという。『土佐日記』と男性の漢文日記との関係や、女流日記に見られる物語的要素、随筆的要素が明らかにされ、男性日記の流れは、明治の森鷗外『航西日記』(『文学国語』の「舞姫」とも関連させられる)などにまで及ぶとされる。

古典の日記の奥深さを知ることにも大きな意味があるが、生徒がこれと同じような視点で日本の言語文化に着目し、もっと探究したいと感じるようになったら面白い。ぜひとも先生方のお力で、生徒をそのように導いていただきたいと思う。



いのうえさきこ／漫画家。言葉を題材とした脱力系の作品で人気を博す。大修館PR誌「辞書のほん」(2010～15年)の「県立いまだき高校授業日誌」が復活！ 新たな脱力国語ワールドをお楽しみください。



# 古典POP広告 を作ろう

～学校図書館との  
連携授業～

▼教材（主教材）

## 「新編 日本古典文学全集」

岐阜県立大垣北高等学校  
はやの まさあき  
早野 賢謙

生徒が古典に親しめるようにするには、どのような工夫が考えられるでしょうか。今回は、図書館と連携した「古典POP広告」作成の活動をご紹介します。古典の内容を広告によって伝える活動を通して、生徒の考えはどのように変わっていったのでしょうか。

今回ご紹介したいのは、図書館連携型授業実践です。その中でも、古典に着目した実践を紹介します。

### 授業の目的

一つ目の目的は、社会のICT化が進む中で、紙媒体の本を読む機会が減少している学習者に対して、その機会を提供することです。社会全体としてはペーパーレス化が進んでいきます。一方で、紙媒体の本を読むという機会は減少してはいますが、無くなることはなく、紙媒体の本を読む力も求めら

れています。そこで、本に親しむ機会をつくらうということ

で、学校図書館と連携し、読書指導を試みました。二つ目の目的は、古典を身近な存在にすることです。古典に対して、学習者は苦手意識や感覚の違いなどから、一定の距離を感じています。私は、このような学習者に対して、いきなり古典の世界へ誘おうとするのではなく、一旦、「自分ごと」として、学習者が自分の世界に古典をひきこみ、その後、古典の世界へ入っていきけるように指導した方が学習者の苦手意識や距離感がなくなるのではないかと考えていま

す。従って、学習者自身が古典を身近に感じ、古典の世界への入り口に立てるような機会を提供したいという観点からも本実践を行いました。

以上の目的に合うように、学校図書館にある古典を学習者自身が見つけ、読み、紹介する古典POP広告作成という単元を組むことにしました。

### 学習者の実態

高校一年生の最後に行った単元です。文法の知識については、既習事項であり、入試単語についても単語帳を一通り小テストで行っています。ただ、定着率はさほど高いとはいえません。また、一年間で扱った教材は、国語総合に記載されているものだけであり、難解な古典に関しては、まだ触れていません。古典に関する一定の知識はありますが、読むことに関しては、不慣れた学習者というのが実態です。

### 単元の概要

全3時間構成とし、学校図書館にて行いました。今回の実践は、高校一年生の年度末最後の3時間を用いました。二年生以降の古典に少しでも親しみを感じてもらえる単元にしようという気持ちをもとに組みました。

1時間目は、最終ゴールである古典POP広告の説明と選

書です。左のワークシートを準備し、選んだ古典作品とその紹介を書くように指示しました。そして、選書に関しては、訳の掲載してある小学館の「新編 日本古典文学全集」を中心に扱うように指示しました。ただし、「どのような作品を選んでもいい」「作品を理解するために、他の本を手がかりにしてもよい」「紹介文の文章量は指定しない」という条件を確認しました。とにかく、「書くこと」にストレスを感じないようにしました。

2時間目、3時間目は、ひたすら読んで、POP広告を作成し、最後に、本とPOP広告を交流し合いました。

#### POP 広告で古典を紹介しよう

皆さんは、一年間に様々な古典に出会ってきました。難しかったものも多かったと思います。よく頑張ってきました。2年生になると、より様々な文章に出会います。より長文になります。しかし、それでも教科書に掲載されている文章は、本当に一部分ではないのです。そこで、今回は教科書に掲載されている文章の出版に出会いましょう。そして、その文章のPOP広告を作って、紹介してください。

やること

- ・下のPOP 広告を完成させる。書き方は自由。絵も可能。
- ・古典を読むこと。
- ・図書館全体を使って良い。
- ・小説、漫画などを読む手助けとして良い。
- ・お気に入りの古典が見つかったら、最高!!!
- ・教科書に掲載されていない古典も可とする。(例：源氏物語など)
- ・図書館に様々な工夫が施されています。

年 組 番 名 前 \_\_\_\_\_

ワークシート例

## ■評価について

知識・技能…1年間で学んだ単語や文法を使って古典を読むことができたか。

思考力・判断力・表現力…選んだ古典の紹介したい部分を取捨選択し、読みたいと思わせる紹介文を書くことができたか。

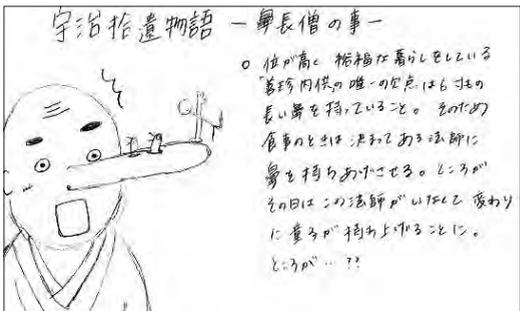
主体的に学習に取り組む態度…選んだ古典を読み解くために、辞書や他の本を利用して、主体的に古典を読もうとしているか。

新学習指導要領に照らし合わせるのなら、このような観点に基づいて評価を行えると考えました。

## ■授業の実際

### ・選書について

想定してはいましたが、選書の実態は学習者によって様々でした。1時間目の半分くらいで選書できている学習者もいれば、3時間目のはじめまで選書している学習者もありました。その中で気づきは、学習者が選書を行う過程で多くの古典に触れることができているということです。古典に触れることに難しさを感じていない生徒は、様々な古典作品を読み比べ、納得がいくものを選んでいました。一方、難しさを感じている生徒は、はじめは古典作品を手にとってみますが、な



生徒の紹介文例

ことができました。また、この学習者は、イラストを描くことで、古典世界を学習者の世界に引きこむことに成功しています。古典世界の僧の実態に関しては、調査ができていないため、再現できていませんが、学習者が親しみやすいイラストにしているということは、古典世界を自分なりにイメージ化できているということになるため、古典世界の入り口を見つけたのではないかと考えられます。このように、紹介文に創意工夫を施す中に、古典世界への入り口を見出している学習者が存在していました。

## ■授業後について

授業後は、図書館司書の協力によりPOP広告と本をセットにして、古典コーナーとして一ヶ月ほど置かせて頂きました。古典を用いた図書館の魅力づくりにおいて、図書館司書の希望にも応えることができたのではないかと思います。



古典コーナーの様子

## ■課題と今後について

古典POP広告作成を通じて、学習者を古典世界の入り口に立たせることができました。しかし、あくまで親しむための入り口に過ぎません。やはり、入り口から古典世界へと入って行き、語られていることを読み取り、語られなかったことへと読み深めて欲しいと思います。本実践から、比べ読みを通して、古典の魅力に気づいていく学習者がいるということが分かりました。以上から、今後は、どのように比べ読みを用いれば、学習者に親しみを感じてもらいながら深い読みへと誘うことができるのかということを、課題として取り組んでいきたいと思っています。

なかなか思うようにはいかないようでした。そこで、古典の特集が組んである雑誌や漫画に手を伸ばしたりしていました。興味深かったのは、漫画である「あさきゆめみし」などを手にとって、内容把握を行ったのちに、源氏物語を読み進めようとした学習者が、漫画と「新編 日本古典文学全集」との違いに気づいていたことでした。そこから、私は、学習者が同じ内容を扱っているにもかかわらず、表現方法が違うという点に気づくことを通して、語りの視点について理解したのではないかと考えました。ここから、一つの作品について、同じ内容であっても、文章と漫画などの媒体を比べて読むことで、語りの視点について意識させられるという授業観点を見つけることができました。

### ・紹介文を書く段階において

紹介文を書く段階においても、学習者の様々な工夫が見られました。例えば、「宇治拾遺物語 鼻長き僧の事」を紹介している学習者は、絵を描くことによって、インパクトをつけているだけでなく、紹介文の最後は、読みたくなるように、物語の主要な部分をわざと紹介しないことによって、さらに読みたくなる工夫を施していました。実際、交流をした際には、他の学習者が紹介されている作品を読んでいる姿を見る

# 詩の教室へようこそ

## 和合亮一

### 第四回 詩の時間を告げるチャイムを：

福島県立本宮高等学校教諭。第一詩集にて、中原中也賞、第四詩集にて晩翠賞受賞。二〇一一年の東日本大震災で被災した際、*memo*で「詩の磔」を発表し話題に。詩集となり、フランスにて詩集賞受賞（日本人初）。二〇一九年、詩集『QQ』で萩原朔太郎賞受賞。校歌・合唱曲作詞多数。

#### ＊「読む」から「書く」へ

詩集の親しみ方について時々、たずねられることがあります。

もちろん、あまり難しいことは考えずに好きな時に好きな詩を読むという事で良いと思います。

ある方はカバンの中にいつも詩集（文庫本がサイズ感として良いそうです）を入れておいて、通勤や待ち時間などで少し暇を見つけた折に読むことにしていると話してくれたことがあります。とても素敵な親しみ方をしていらっしゃいますねと感心いたしました。

詩の種類も実に様々で、そのとらえ方も人によって色々、読み方も千差万別：。だから一概にこうだとは言えないと思います

文章にこのようなものがあつたことを発見して、とても励まされたのです。

「詩というものは先ずまねをしなければ伸びない、まねをしていても、まねの屑を棄てなければならぬ」。

なるほど。このようにして近代詩人たちはこつこつ読むことと書くことに励んだのだと思わせてくれる一節です。特に「屑を棄てる」とは面白い言い方です。誰その真似をしたのだと思わせないことが、さらに重要なのだとも気づかせてくれます。でもここはかなり創作熱の入った人へ向けている内容であつて、初めての生徒さんには伝えなくて良いと思います。あれこれ真似てみようとするのが、書き始める第一歩としてとても大事：、まずは詩人のモノマネに徹してみよう、と。それが出来るのもまずは、しっかりと生徒さんが時間をかけて、繰り返し詩を読み耽つてみるというところが前提としてあるから出来るのです。読むことと書くことの両輪の始まりです。

震災直後、私は被災地の福島で起きている出来事を、「詩の磔」と題し、無我夢中になつて毎日、現状の報告のような気持ちで

す。私は詩を作る時のヒントを探すために詩集を開くという気持ちで、実作者として強くあります。でも詩を書いてみたいと思ふ前は、詩の世界を知りたいとか触れたいという素直な心持ちのほうがとても強かつたと思ひ返します。そしてあれこれ読み耽つていっているうちに、次の扉を開きたくなつたのです。それを開いてみて：。

めたりしてみます。それをホチキスで綴じたり、ファイリングしてみたり：、言わば自分だけの手作りアンソロジー詩集を作つてみることをアドバイスします。世界に一冊しかないコレクションブックを、繰り返し読んでみることを伝えます。

#### ＊真似ることから始める

私は何かを書いてみようかなあとという生徒さんには、まずは詩集を読むことから勧めます。読み終えてから、好きだと思つた詩を尋ねてみます。そして、コピーして手渡したり、短いものなら書き写すことも勧め

私は詩を書き始めた時に、真似をしたII盗み出したいという気持ちで眺めているのだと気づいたことがあります。少し邪な気もして自己嫌悪のようなものに陥つた時もありました。しかし室生犀星の記した

ツイッターに詩の発信をし続けました。メディアなどで谷川俊太郎さんの「生きる」宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」という詩が数多く取り上げられて紹介されていて、私自身もとても励まされました。この時に詩が多くの方々々に求められたという事実は、皆が正に言葉の力を欲していた証であつたのだと思います。

- 生きていくということ
- いま生きているということ
- それはのどがかわくということ
- 木もれ陽がまぶしいということ
- ふつと或るメロディを思い出すということ
- くしゃみすること
- あなたと手をつなぐこと

激しい余震にさいなまれながら新聞やネット記事などであらためてこの詩を目にした折に、子どもさん向けのワークシヨップの思い出し、参加者の小さな表情の一つ一つが浮かび、懐かしく、切ない気持ちになつたことを、あれから歳月が過ぎましたが、

今でも時折に思い出すことがあります。まずは谷川さんの真似をしてみるような気持ちで最初の部分の続きを書いてみようということから、そのワークシヨップは始まつたのでした。谷川さんになり切つて、どんなふうが続くのか、それをみんなに考えてもらいました（本当の続きの部分は隠します）。たぐさんの「生きる」が飛び出しました。例えば「失恋」や「ねぼう」など名解答・珍解答が出ました。

続きはどうなるだろうという想像の時間を終えてから、正解の谷川作品をみんなの声に出して読んでみました。あがつたのは「おお」とか「そうか」とか「こう書かれていゝんだなあ」という、楽しんだり、感心したりしている声でした。クリエイティブな雰囲気を感じました。

なり切つて作つてみたことにより、子どもたちがとても能動的になつていゝることを目の輝きや呼吸で実感できたのです。悪ノリは続きました。例えばその詩をまた隠して、もう少し続きを書いてみようかと勧めたり、「生きる」というタイトルが無かつたら、何になるかということを選んで

話し合わせたりしました。例えば「夢」「好きなこと」「成長」など、別のタイトルが生まれました。

ワークショップの最後には、スペシャルゲストとして招いた谷川俊太郎さん、ご本人に登場していただきました。子どもたちからここまで挑戦してみた内容を一つ一つ発表してもらいました。

その前に、作品を好き勝手にしてしまいが、失礼なことをしてしまいましたとお詫びいたしました。自分の書いた一つの作品でみんなにあれこれ楽しんでもらえて、とても嬉しいですよにこにこ話して下さった姿が印象的でした。

この時に、詩人の真似をはっきりとやってみようということの効果的なのだと、勝手にながら指導する側として確信したのでした。時には創作者の気持ちでオリジナルの作品にコミットメントしていくというところが、読むことをより親しいものにして、広がるイメージも豊かで具体的なものになっっていくのだと思いました。

読むと書きたくなる、じゃ、書いてみる、

の境地と似たメッセージが伝わってくるような、印象深い一節があります。

「灯りの下に自由ありき。灯りの下の自由は言葉なりき。最初に手に入れた、首の曲がる、じぶんだけの電気スタンドの下で見つけてからずっと、いまでも胸にあるわが箴言です。」（『幼年の色、人生の色』）。

長田さんもまた「灯り」「燈」のもので、静かで深い読書の時間をこよなく愛し、人生の中でずっとそれを大事にしてきた姿が、この部分から良く分かってきます。積極的に何かを書物へと求め続けていくことの自由…。

光の下の本の頁に広がる限らない言葉の世界の味わいを生徒さんたちへ伝えていくことが出来たらと願っています。

\*

素敵な投稿作品が届きました。

### 校舎

東京都立大江戸高等学校二年 藍原

響く あなたの声がかこえる

するとまた読みたくなる…という具合に。両輪は回り続けていくのです。

### ✿ 詩集と語り合うこと。

吉田兼好が記した「徒然草」の第一三段に書物を読むことの楽しみを語った一節があります。「ひとり、燈のもとに文をひろげて、見ぬ世の人を友とする」（灯のもとで書物を広げ、かつて筆を執った遠い昔の世の人を友として…）。

彼は中国の南北朝時代や春秋時代などの詩文集や論文をこよなく愛し、読み耽っていました。書物を広げて、その向こうに見える人の影を友として…、兼好法師に読書の極意を教えられたように思います。

しかしここであえてまたまた勝手ながらの提言ですが、例えば「見ぬ」ではなくて「見る世の人」という考え方もあてはめてみては…と思うことがあります。

私はこれまで、中原中也の妹さんや弟さん、室生犀星のお孫さん、萩原朔太郎のお孫さん、晩年に花巻で暮らした高村光太郎と親しくしていた近所の子どもさん、土井晩翠の教え子さん：e t c. の方々に会い

に行き、直接にその詩人本人の逸話はもちろん、その人物と交流のあった人々の話などを伺うことをしています。

不思議とその後で、彼らの詩を読む意識がすっかりと変わることをいつも実感します。ゆかりのある方々と出会うことで、姿が見える気がするのです。言わば「見ぬ」から「見る」に変わる瞬間なのかもしれないね。彼らの人物像や人生にもっと触れなくなるし、全ての作品を読破してみたいと強く思うようになります。

好きな詩人をしっかり見つけられた折には、その人生を追いかけてみるのを生徒さんたちに勧めてみるのはいかがでしょう。例えば近代詩人が好きなのであれば、数々の書き手たちが、詩人たちの伝記を手がけていることは私が言うまでもないでしょう。それに触れながら、制作時期と作品とを照らし合わせてみるような読み方を生徒たちに紹介してみると、言わば詩人論の入口に立つことにもなると言えるでしょう。

私の母校の先輩の詩人長田弘さんの、読書について書かれたエッセイで、兼好法師

遠い 天井で響く

ガラス張りの空気 透けた先のあなた

響く あなたの声がかこえる

近づく 少しでも同じ場所にいたくて

ここは冷たい

ガラス張りの空気 透けない足元

遠く あなたの声がかこえる

近づいたって 定規一本ぶん 遠く

響く あなたの声はいつも私のそばで

遠い 天井で響く

ガラス張りの空気 融かしてしまえよう

言葉を絞って 言葉を磨いて

そしてやっと あなたに声をわたす

近づく 少しでも早くわたしたくて

響く 私の声をあなたに

ここは冷たい

ガラス張りの空気 透ける心

近く もっとずっと

ガラス張りの空気 あなたの熱を映す

透ける心さえ あなたと交わっていく

響く あなたの声をきく

そばで 私の声をわたす

灰と白で縁取られた私は

灰と白で縁取られたあなたの

響く あなたの声を探す

時間を告げるチャイムすら

ガラス張りの空気 さえぎつてしまっから

空気を震わせている何かをキャッチする

鋭い感覚があります。

今という瞬間の一つひとつを心に刻んでいる姿が見えてきます。誰かと何かを伝え

合い、響き合うことの新鮮さが、見事に言葉に託されていると感じました。

そうですね。時間を告げるチャイムは、

何かを終わらせて、何かを始めさせてくれます。私たちは学校という場所で、その連続を生きているんですね。

かけがえない青春のありかを。

### 詩の作品大募集！

本連載では、高校生の詩の作品を募集いたします。応募作品の中から和合先生に選んでいただいたものを誌面にてご紹介していきます。奮って応募ください！（募集要項は64頁）



# 国語教科書のご案内

● 1年生 必修(2単位) ●

● 2・3年生 選択(4単位) ●

実社会を生き抜くための  
言葉の力を育む



現国 706  
現代の国語

②



現国 707  
新編 現代の国語

③



論国 705  
論理国語

⑥



論国 706  
新編 論理国語

⑦

新編シリーズ



国表 701  
国語表現

⑩

時代と空間を越えた  
言葉と文化の豊かさを知る



言文 705  
言語文化

④



言文 706  
新編 言語文化

⑤



文国 704  
文学国語

⑧



文国 705  
新編 文学国語

⑨

「新編 文学国語」には古典もあり



古探 707  
古典探究 古文編・漢文編

⑬



古探 708  
精選 古典探究

⑪

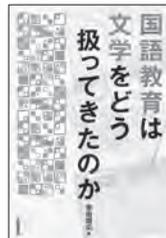
いずれかを選択

## タイムマシンに乗って

### 『国語教育は文学をどう扱ってきたのか』のススメ

早稲田大学教育・総合学術院教授

幸田国広



本書は、主に戦後から二〇一〇年代までの国語教育史を扱っている。国語科の歴史の中で文学の教育はどう考えられてきたのか、それが中心テーマである。教育は未来に向けた営みであり、「今」の結果は、その時にならないといけない。タイムマシンでもなければ、誰もその景色を確かめることはできない。だが、それは歴史においても同様である。歴史はかつて確かに流れていた時間だが、すでに忘れられていたり、誰も詳しくは知らなかったり、多くの謎に満ちている。だが、過去の景色を見ることで、「今」の形成過程を知ることができ、そして「今」を「当たり前」と思う意識に立ち止まることもできる。もう二十年も昔、高校教師だった頃のこと

と。自分が国語科の教員なのに「国語教育」のことをほとんど知らないことに気付いて愕然とした。在職のまま大学院の門を叩き、歴史を中心に勉強し直すことにした。博士後期課程に進んだ頃、ちょうど新カリキュラム検討の時期で、教科主任や教務の仕事をしていた自分にとって大学院での研究はとても有効に働いた。とはいえ、それは必ずしも「うまくいった」ということではない。どの教科も単位数の争奪戦となり、妥協の末にどうにか帳尻を合わせるといった具合だった。国語科内部のカリキュラムについても、何十年も手付かずだった教科目標を変える提案に対してベテランは冷ややかだった。しかし、国語教育の歴史的研究は、職場

での新カリキュラム検討の際に感じた困難さを解釈する上で大きな手がかりを与えてくれた。一方で、また歴史の景色を眺めるうえでの得難い視座にもなっていた。少子化や人口減少だけを見て日本社会の「これから」は「これまで」通りにはいかないことがわかっていく。一方で、人工知能や情報化の浸透によるイノベーションも、さらに急速に進むと考えられている。数十年後の社会では「今」の子どもたちが大人になって活躍することになる。その時、「今」はどんな歴史として描かれるのだろうか。未来への営みとしての教育は、時間の経過とともに歴史としての色彩も濃くしていく。本書は、様々な困難や疑問に悩んでいる現職の先生方を主な読者として書き進めた。国語教育における「文学」が話題になる「今」を、立ち止まってじっくりと考えてみたいと少しでも思うことがあるなら、本書を手にとってほしい。タイムマシンに乗って歴史の海を旅してみよう。

「他者に共感する力」「論理的に考える力」  
「言葉で伝え合う力」を高める教科書

# 新編 現代の国語

現国707 B5判 238ページ



コミュニケーションは技術だ。  
やり方次第でどんどん上達するのだ。

B5版



グローバル社会に通用する実践的な  
「話す・聞く」「書く」「読む」力を育む

# 現代の国語

現国706 A5判 286ページ

豊富な読み教材で、  
 評論文 15本  
 導入・参考ほか 9本  
 実用的な表現 10本  
 統計資料 14本  
**しっかりインプット!**



特色 4

大判ならではの、見やすく  
わかりやすいレイアウト  
「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材  
は上段に学習活動 下段にポイント欄を配  
置。学習活動の流れがわかりやすい紙面を  
実現しました。図表や写真の可視性もアッ  
プ!

特色 3

新鮮かつバラエティー豊かな  
読み物が盛りだくさん  
論理的な思考力を育む評論、関心や意欲を  
高めるエッセイ、料理レシピやアニメー  
ション映画の企画書などの実用的な文章と  
いった、多様な教材を用意しています。

特色 2

基礎から発展へ、  
一歩ずつステップアップ  
教科書全体をとおして、学習段階を考慮し  
ながら構成しました。国語の力を着実に身  
につけていくことができます。

特色 1

三つの領域を  
バランスよく配置  
言葉に関する知識・技能と「話すこと・聞  
くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域  
の力を育む教材を、学習のねらいに応じて  
10の単元に分けて構成しました。

特色 4

主体的・協働的な学びを  
サポートする充実の資料編  
生徒が主体的に学ぶために役立つ「豊かな  
言語活動のために」「キーワード解説」「情  
報の集め方」など、付録・資料も充実して  
います。

特色 3

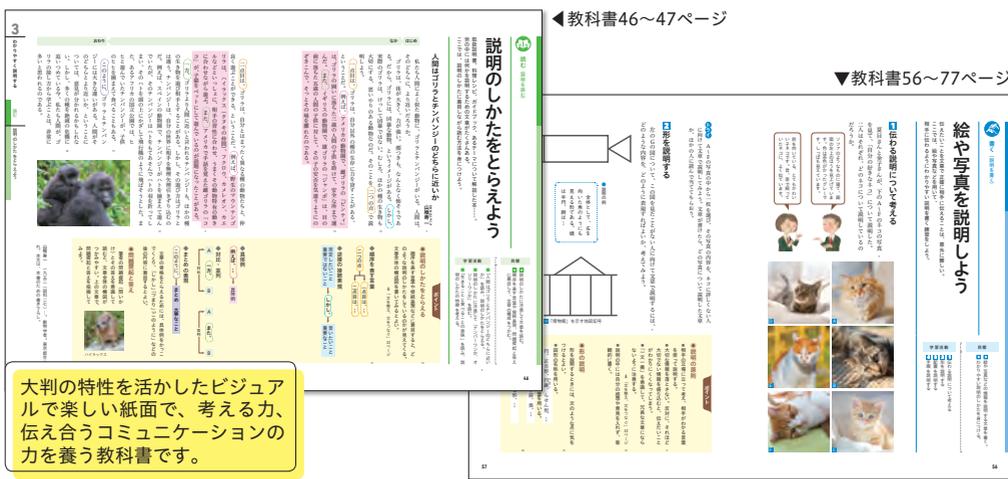
実社会・実生活で  
役立つ力を育む  
企画書プレゼンテーションなど、実社会・  
実生活で必要とされる活動を豊富に設定  
規約や広告など、実社会で用いられる表現  
に親しむコーナー「社会への視点」も設け  
ました。

特色 2

新しい大学入試に対応した  
教材を多数収録  
統計資料や図版の解釈、複数の文章や資料  
の比較読みなど、新たな学力に対応した教  
材を多数収録しました。

特色 1

3領域の学習を徹底サポート  
「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読む  
こと」の学習目標・手順を明確化。「ウォー  
ムアップ」「ワーク」を設置し、何を、なぜ  
どのように学ぶかが見えるようにしました。



大判の特性を活かしたビジュアル  
で楽しい紙面で、考える力、  
伝え合うコミュニケーションの  
力を養う教科書です。



身につけた力を意識した構成  
で、見通しをもちながら学習が  
進められる、現代社会に必要な  
実践力を鍛える教科書です。

新鮮な教材で言語文化への興味をかき立て、  
ことばの旅へといざなう教科書

# 新編 言語文化

言文706 B5判 312ページ



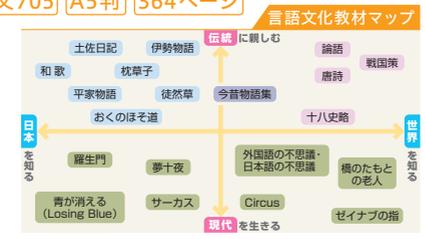
B5版



多彩な教材を揃えた、  
新しい国語のスタンダード

# 言語文化

言文705 A5判 364ページ



タテとヨコ。  
ふたつの軸で、言葉と文化を探究する。



**特色 4**

大判だからできた、見やすく楽しい紙面

大判の特長を生かして、読みやすくわかりやすい紙面デザインを実現。生徒の好奇心を刺激する写真やイラストを多数盛り込み、眺めるだけでも楽しめる教科書に仕上げました。

**特色 3**

授業で使える！古文編・漢文編の工夫

教材本文では、見開き単位を意識した紙面構成をし、使いやすいレイアウトを追求しました。古文の助動詞や漢文の訓読など、つまずきやすいポイントについても、わかりやすく徹底的に解説しています。

**特色 2**

日本の「言語文化」を実感できる「言語文化の窓」

「言語文化の窓」を、各単元末に設置。受け継がれてきた言葉や文化についての解説、著名人による古典作品の紹介など、興味・関心をかき立てるビジュアルなページです。

**特色 1**

新鮮で魅力的な教材群

言葉の価値や文化のつながりなど、重要なテーマに触れられる新教材が満載！小説は、定番の「羅生門」を始め、夏目漱石から村上春樹まで、近現代の名作を網羅しました。

**特色 5**

図録・資料の充実

巻頭・巻末の図録では、世界と日本の言葉や日本の伝統芸能の演目を幅広く紹介。豊富な資料図版で理解を助けます。

**特色 4**

多彩なコラム

作品を読み解くための技能をおさえる「解釈の視点」、豊かに言語文化の知識を育む「言語文化の窓」に加え、言葉に関する豆知識「言葉のタネ」を設置しました。

**特色 3**

新しい大学入試にも対応

和歌と鑑賞文、古文と漢文の比較読みなど、新しい大学入試にも対応する教材を豊富に収録。新傾向の入試対策も万全です。

**特色 2**

自ら調べ、自ら深める「探究」

言語文化に関するテーマについて、生徒が自分で調べ、考えを深めるコーナー「探究」を設置。多彩な資料をもとに、探究的な学習を実践することができます。

**特色 1**

タテとヨコの言語文化

ことばと文化の歴史的な連なりを考える「タテ」の言語文化と、さまざまな地域・国とのつながりを考える「ヨコ」の言語文化。古文・漢文はもちろん、小説の名作や翻訳の文章も掲載。広い視野で学べる教科書です。

教科書口絵

教科書後見返し

「キーワードで読み解く言語文化」、「現代と古典を比べてみよう」など、言語文化のつながりが楽しく学べる教科書です。

教科書後見返し

教科書口絵

「世界の言葉」や「日本の伝統文化」など、図版も豊富に収録。古典と現代、日本と世界を見わたす教科書です。

とらえる。整理する。解決する。  
社会で役立つ「生きた論理の力」を育む教科書

# 新編 論理国語

論国706 A5判 330ページ



楽しみながら、考える力を組み立てる。



「読むこと」と「書くこと」を往還し、  
強靱な思考力・判断力・表現力を養う教科書

# 論理国語

論国705 A5判 438ページ



「問」「読」「書」の反復で 確かな国語力を育む。



特色 4

**楽しく役立つコラム・資料**  
論理の小ネタを紹介する「論理の窓」のほか、巻末資料では思考ツール、情報収集のコツ、引用の方法など、豊富な資料類をご用意。論理を活用し、自ら考える力を育みます。

特色 3

**新しい大学入試も怖くない！**  
統計資料の読み取り、複数の文章の比べ読みなど、新しい大学入試にも対応できる教材を豊富に収録。新傾向の入試対策も万全です。

特色 2

**苦手得意に変える「書くこと」の学び**  
「書くこと」の単元を4つ用意。段階的に配置された「ワーク」で、着実に「書く」力を身につけられます。小論文・レポートはもちろん、志望理由書や自己推薦書の書き方も徹底サポート！

特色 1

**基礎から発展へステップアップ！**  
教科書全体を通して、学習段階を考慮し、一歩ずつ成長できる構成に。ウォームアップで楽しい準備体操、ごく短い文章教材「例題」で読解の練習、最後に設問コーナー「フォーカス」で、論理の力を固めます。

特色 4

**学びを深める充実の資料**  
教材の読みを深める「キーワード解説」、教材間を横断して知識をつなげる「キーワード索引」「人名索引」、論理的思考を深め、表現活動をサポートする「知の道具箱」など、教材以外の資料も充実しています。

特色 3

**新しい大学入試への対応**  
「学習のポイント」に、筆者の主張を吟味・検討したり、複数の資料を比較したりする設問「考察・発展」を設置。日々の学習に取り組み中で、新傾向の入試にも対応できます。

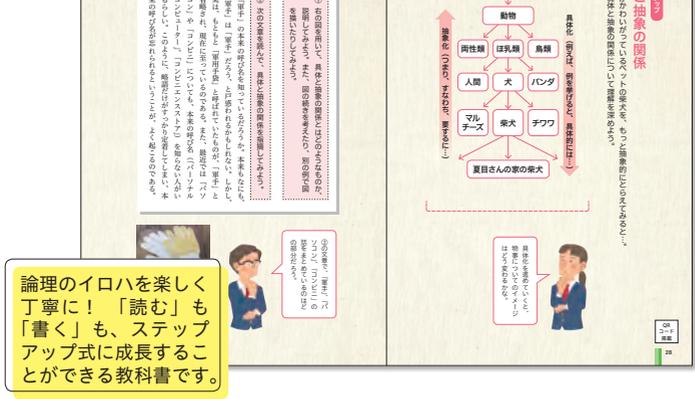
特色 2

**自己の世界を広げる多様な教材**  
各単元に、現代を考える上で押さえておきたい、多様なテーマの教材を複数配置。読み比べることで、多角的な視野を養えるようにしました。さらに単元末には、古今東西の名著を引用付きで紹介した「テーマと読書」を設置。さらなる探究に誘います。

特色 1

**「問い」「読む」「書く」とおして確かな力を**  
各単元に、教材と関連した「問い」を設置。目的をもって、「読む」教材と向き合えるようにしました。さらに単元末の「書く」活動に取り組み、さらに「読む」教材で学んだことを、自己の表現にもつなげます。

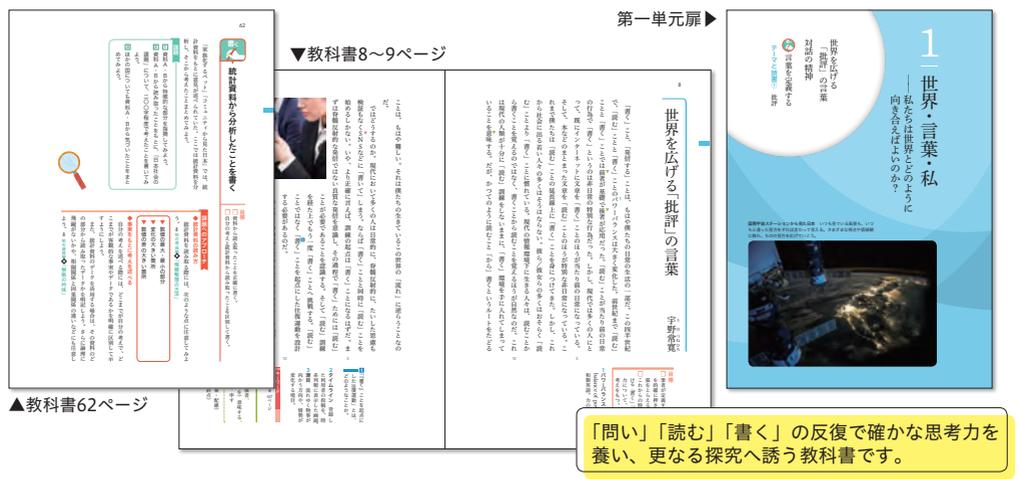
教科書 28~29 ページ▶



教科書50ページ▶



▲教科書62ページ



「問い」「読む」「書く」の反復で確かな思考力を養い、更なる探究へ誘う教科書です。

評論も、古典も、書く力も。  
文学のすべてを、この一冊で。

# 新編 文学国語

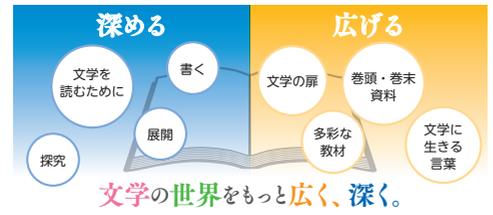
文国705 A5判 398ページ



生きた文学史が一望できる！

# 文学国語

文国704 A5判 454ページ



特色 4

**学びを支えるブックデザイン**  
読みやすい本文書体、美しい挿画等の見た目はもちろん、行の数えやすさ、読みの流れを妨げないページめくりなど細部にまで気を配ったデザインで学びのバリアフリーを目指しました。

特色 3

**特集とコラムで文学がわかる**  
巻頭の「文学の扉を開こう」で文学の読み方を具体的に解説。コラム「ことのは」や「文学の窓」も併せて、文学を読み、楽しみ、深く味わう力が身につきます。

特色 2

**評論も、古典も、書く力も**  
小説だけでなく、随想・評論も12本収録。古典の名作をコンパクトに味わえる「古典の世界」、楽しみながら創作に取り組める「書くこと」など、文学のすべてを一冊に盛り込みました。

特色 1

**心に響く近現代の文学作品**  
近代の名作から現代の新鮮な作品まで、長短合わせて16本の小説作品を厳選。さまざまな組み合わせ方ができるように、1学期に1本以上の定番教材を置きました。

特色 5

**興味が広がる付録・資料**  
読むとき、書くときに役立つ「文学に生きる言葉」や、「日本近代文学の作家たち」「世界文学地図」などの付録・資料を収録しました。

特色 4

**知識が広がり、読解が深まる多彩なコラム**  
文学のさまざまな知識が身につく「文学の扉」、「小説の語り手」「比喩と象徴」など、文学の文章を豊かに読むための視点を紹介する「文学を読むために」を設置しました。

特色 3

**心を動かす表現力が身につく**  
「書く」では、課題に沿って文学的文章を書き活動に無理なく取り組めるようにしました。

特色 2

**解釈・考えが深まる**  
「展開」「探究」教材と比べて読み、多様な解釈の可能性を知ることができる「展開」自ら調べたり考えたりするための「探究」を設置しました。

特色 1

**文学を読む楽しみが広がる教材群**  
「山月記」「ころ」「舞姫」などの定番教材から最新の作品まで、多様な時代や国の作品を満載。文学・文化・言語を考えるきっかけとなる随想・評論・戯曲も計13本収録しました。

教科書114～115ページ

教科書10～11ページ

1 文学的な文章とは？

2 場面設定を押さえる

かぐや姫の昇天 竹取物語

心に響く作品、「読み方」のガイド、洗練された紙面で、楽しい文学の世界へ誘う教科書です。新編では古典の名作も網羅！

教科書22～23ページ

教科書後見返し

旅する本

文学の世界を、もっと広く、深く。近代から現代、日本だけでなく海外の作品も収録。「生きた文学史」を一望できる教科書です。

充実した教材で、  
入試を見据えた授業を

# 精選 古典探究

古探708 A5判 408ページ

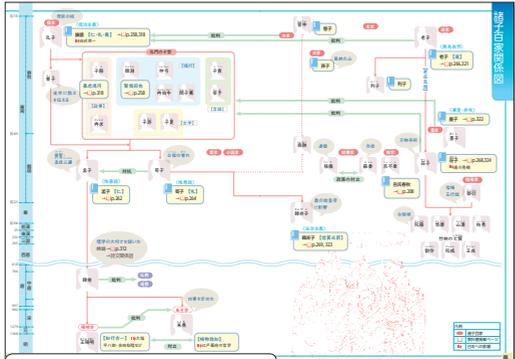
- 古文 71本
- 漢文 59本
- 現代文 9本
- コラム 38本
- 付録 54p

古文、漢文ともに  
充実の教材数！

副教材いらずの充実度です！



- 特色 5** 画期的な付録を新設  
漢文付録の「諸子百家関係図」や「詩文関係図」など、どこにもない資料を数多く作成しました！
- 特色 4** 多彩な図版で理解促進  
言葉で説明が難しい地理や人間関係が一目でわかる図版や、作品の読解に資する美術作品を多数掲載。
- 特色 3** 高校生の疑問に答えるコラム  
「古文の窓」「漢文の窓」に加え、高校生の素朴な疑問に答え、興味を引き出すコラム「豆知識」を新設。読解に役立つ知識のほか、読書案内も盛り込みました。
- 特色 2** 探究学習に取り組みやすい構成  
「探究学習」を授業に取り入れやすくする、探究課題を新設。また、読書案内やコラムでも、自主学习へのきっかけを多数紹介しています。
- 特色 1** 入試を見据えた読み比べ教材  
教材の読解を深める「読み比べ」(読み比べ教材「視点」(鑑賞文等)を新設。近現代文の文章を読んで課題に取り組み共通テストなどの新傾向入試にも対応できます。



古典常識を押さえるなど、古典読解の補助となる図版資料が充実！ 古典の世界をつかむことができる教科書です。

▲教科書後見返し



▼教科書366ページ



▲教科書55ページ

授業でも実社会でも「使える」教科書、  
さらにアップデート

# 国語表現

国表701 B5判 250ページ 2部構成

- 問題数……→200問以上!!  
実践的な問題を解きながら学習を進められます。
- 読み物教材……→43本!!  
生徒に読んでほしい、考えてほしいテーマの文章を集めました。
- 使えるグラフ……→15本!!  
小論文やプレゼンの題材に!

B5版



- 特色 5** メディアの活用方法を伝授  
手紙や電話はもちろん、電子メールの使い方からSNSのマナー、インターネットによる情報収集まで。ネット社会を生きる生徒に伝えたい、正しいメディアとの付き合い方を伝授します。
- 特色 4** 実社会で役立つ自分PRの方法を指南  
志望理由書や自己推薦書の書き方から、面接のコツやグループディスカッションの練習まで、進路に向けたあらゆる場面で役立つ自己表現の方法すべてを、この一冊にまとめました。
- 特色 3** 小論文の書き方完全マスター  
小論文の書き方を基本から丁寧に解説。このステップなら誰でも小論文が書ける! さらに、課題文型・データ型・テーマ型など、多様な形式の小論文対策を網羅しました。
- 特色 2** 楽しく言葉の基本を学ぶ  
教科書全体をとおして、クイズ形式などの問題を解きながら言葉の基本や言語活動の基礎を学べる工夫をしました。教科書のステップに沿って学習を進めていくことで、実社会で「使える」国語力が着実に身につきます。
- 特色 1** 表現力を培い、表現を楽しむ姿勢を育む2部構成  
書く力、話す・聞く力、言語運用力、情報活用力。言葉の自由自在に駆使し、生き生きと表現する。そんな力を育むために、第1部「表現力を培う」・第2部「表現を楽しむ」の2部構成としました。

教科書12~13ページ

▼教科書176~177ページ

コミュニケーションの基礎となる言葉の使い方を学び、さまざまな場面で活用する。生きた表現力を培う教科書です。

豊富な教材と資料で、  
古典を主体的に学ぶ

# 古典探究 漢文編

古探707 A5判 206ページ

定番教材を網羅した他、生徒の興味関心を  
引き出す教材を多数掲載

- 漢文 76本
- 古文+現代文 10本
- コラム 18本
- 付録 20p

難しく感じてしまいがちな  
漢文に興味を持てる、疑問を解決する  
コラムや資料がたくさん！



豊富な教材と資料で、  
古典を主体的に学ぶ

# 古典探究 古文編

古探706 A5判 296ページ

定番教材を網羅し、生徒の興味関心を  
引き出す教材を多数掲載

- 古文 84本
- 漢文+現代文 6本
- コラム 26本
- 付録 36p

漢文や現代文の教材を掲載！  
日本古典とのつながりを  
実感できます。



**特色 4** つながりを把握して漢文に親しむ

**特色 3** 高校生の疑問に答えるコラム

**特色 2** 探究学習に取り組みやすい構成

**特色 1** 漢文の理解を深める読み比べ教材

**特色 4** 多彩な図版で理解促進

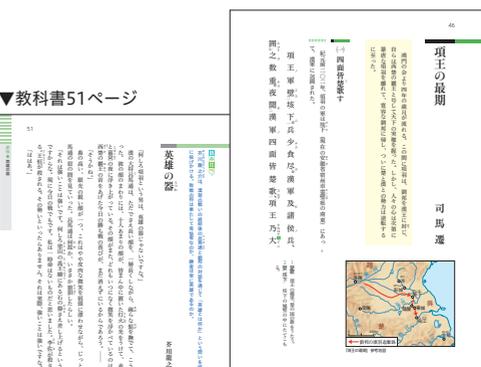
**特色 3** 高校生の疑問に答えるコラム

**特色 2** 探究学習に取り組みやすい構成

**特色 1** 入試を見据えた読み比べ教材



▲教科書後見返し



▲教科書46ページ



▲教科書21ページ



探究活動にも役立つ図版資料や興味を引き出す教材が充実。古文に親しむための仕掛けが詰まった教科書です。

# 教師用指導書セットのご案内

大修館の新しい教科書での授業を万全にサポート。  
 「教師用指導書」「付属DVD-ROM」「教師用教科書」「朱書」の3点セット。

## 教師用指導書

「こう授業すればよい」がひと目でわかる！  
 丁寧な学習指導案を複数パターン提示。

学習指導案「文章の要点をつかむ」

時分	目標	学習活動
1	□「水のおいしさ」をつかみ、具体と抽象、対比の関係を理解する。	1. 「ウォームアップ」を読み、具体と抽象、対比の関係を理解する。 「水のおいしさ」に対して「フック」「野郎」「マジン」「水」が具体例であることを確かめる。 「ウォームアップ」と「水のおいしさ」が対比されていることに気づく。
2	□「水のおいしさ」の表現の特徴や構成を理解する。	2. 「水のおいしさ」を音読し、全体の構成をつかむ。 「水のおいしさ」と「水」の対比を捉える。 3. 「水のおいしさ」における具体と抽象、対比関係を捉える。 ・具体例がどのような意味で用いられているかを考える。 ・対比関係を再確認して整理する。 ・「水のおいしさ」と「水」の対比を捉える。
3	□「水」への変化の理由の理由や構成を理解する。	1. 「水」への変化の理由を捉える。 ・「水のおいしさ」と「水」の対比を捉える。 2. 「水」への変化の理由の理由や構成を理解する。 ・「水のおいしさ」と「水」の対比を捉える。 ・「水」への変化の理由の理由や構成を理解する。 ・「水のおいしさ」と「水」の対比を捉える。
4	□「水」への変化の理由の理由や構成を理解する。	1. 「水」への変化の理由の理由や構成を理解する。 ・「水のおいしさ」と「水」の対比を捉える。 2. 「水」への変化の理由の理由や構成を理解する。 ・「水のおいしさ」と「水」の対比を捉える。

【備考】授業時間数や年間学習計画に応じて、「水のおいしさ」と「水」への変化の理由の理由や構成を理解することも考えられる。その場合、授業で扱わなかった教科を自学学習課題として取り扱ってよい。

観点別評価規準例「伝わるように話す」(A案)

評価項目	評価内容	評価方法
話し言葉	話し言葉が伝わるように話している。	観察
聞き言葉	話し言葉が伝わるように話している。	観察

学習指導案「伝わるように話す」

時分	目標	学習活動
1	□「水のおいしさ」をつかみ、具体と抽象、対比の関係を理解する。	1. 「ウォームアップ」を読み、具体と抽象、対比の関係を理解する。 「水のおいしさ」に対して「フック」「野郎」「マジン」「水」が具体例であることを確かめる。 「ウォームアップ」と「水のおいしさ」が対比されていることに気づく。
2	□「水のおいしさ」の表現の特徴や構成を理解する。	2. 「水のおいしさ」を音読し、全体の構成をつかむ。 「水のおいしさ」と「水」の対比を捉える。 3. 「水のおいしさ」における具体と抽象、対比関係を捉える。 ・具体例がどのような意味で用いられているかを考える。 ・対比関係を再確認して整理する。 ・「水のおいしさ」と「水」の対比を捉える。

「話す・聞く」の評価もばっちり！ 具体的な観点別評価規準例を提示。

ウォームアップ 文章の要点をつかむ

「水のおいしさ」をつかみ、具体と抽象、対比の関係を理解する。

「水のおいしさ」に対して「フック」「野郎」「マジン」「水」が具体例であることを確かめる。

「ウォームアップ」と「水のおいしさ」が対比されていることに気づく。

「水のおいしさ」を音読し、全体の構成をつかむ。

「水のおいしさ」と「水」の対比を捉える。

「水のおいしさ」における具体と抽象、対比関係を捉える。

具体例がどのような意味で用いられているかを考える。

対比関係を再確認して整理する。

「水のおいしさ」と「水」の対比を捉える。

板書例を豊富に掲載、ビジュアルでわかりやすい紙面。

## 付属DVD-ROM

- ・原文データ
- ・現代語訳／品詞分解／白文／書き下し文データ
- ・ワークシート
- ・板書例
- ・小テスト
- ・評価問題（標準・発展・実力）
- ・発問例全データ、語句・文法データ
- ・音声データ
- ・補助資料
- ・学習ノートデータ
- ・評価支援ツール
- ・大修館漢文エディタ オンライン

小テスト

その時間の授業のまとめに。基礎・基本を10分でチェックできる。

水のおいしさ

水のおいしさをつかみ、具体と抽象、対比の関係を理解する。

水のおいしさに対して「フック」「野郎」「マジン」「水」が具体例であることを確かめる。

ウォームアップと水のおいしさが対比されていることに気づく。

水のおいしさを音読し、全体の構成をつかむ。

水のおいしさと水の対比を捉える。

水のおいしさにおける具体と抽象、対比関係を捉える。

具体例がどのような意味で用いられているかを考える。

対比関係を再確認して整理する。

水のおいしさと水の対比を捉える。

ワークシート

活動的な授業がサポートできる、使いやすいワークシートが盛りたくさん。

水のおいしさ

水のおいしさをつかみ、具体と抽象、対比の関係を理解する。

水のおいしさに対して「フック」「野郎」「マジン」「水」が具体例であることを確かめる。

ウォームアップと水のおいしさが対比されていることに気づく。

水のおいしさを音読し、全体の構成をつかむ。

水のおいしさと水の対比を捉える。

水のおいしさにおける具体と抽象、対比関係を捉える。

具体例がどのような意味で用いられているかを考える。

対比関係を再確認して整理する。

水のおいしさと水の対比を捉える。

## 教材配信サービスののご案内



付属DVD収録のデータをダウンロードして入手できる配信サービスをご用意しました。

評価問題

「発展」には大学入学共通テストに対応した問題もご用意。

水のおいしさ

水のおいしさをつかみ、具体と抽象、対比の関係を理解する。

水のおいしさに対して「フック」「野郎」「マジン」「水」が具体例であることを確かめる。

ウォームアップと水のおいしさが対比されていることに気づく。

水のおいしさを音読し、全体の構成をつかむ。

水のおいしさと水の対比を捉える。

水のおいしさにおける具体と抽象、対比関係を捉える。

具体例がどのような意味で用いられているかを考える。

対比関係を再確認して整理する。

水のおいしさと水の対比を捉える。

教師用教科書「朱書」

生徒の教科書と同体裁で、学習指導案、評価の観点、設問の解答例などを朱記。別売りも可。

水のおいしさ

水のおいしさをつかみ、具体と抽象、対比の関係を理解する。

水のおいしさに対して「フック」「野郎」「マジン」「水」が具体例であることを確かめる。

ウォームアップと水のおいしさが対比されていることに気づく。

水のおいしさを音読し、全体の構成をつかむ。

水のおいしさと水の対比を捉える。

水のおいしさにおける具体と抽象、対比関係を捉える。

具体例がどのような意味で用いられているかを考える。

対比関係を再確認して整理する。

水のおいしさと水の対比を捉える。

■必修科目デジタル教科書「別売」

見てさわって使いやすい、新しいデジタル教科書をご用意しました。

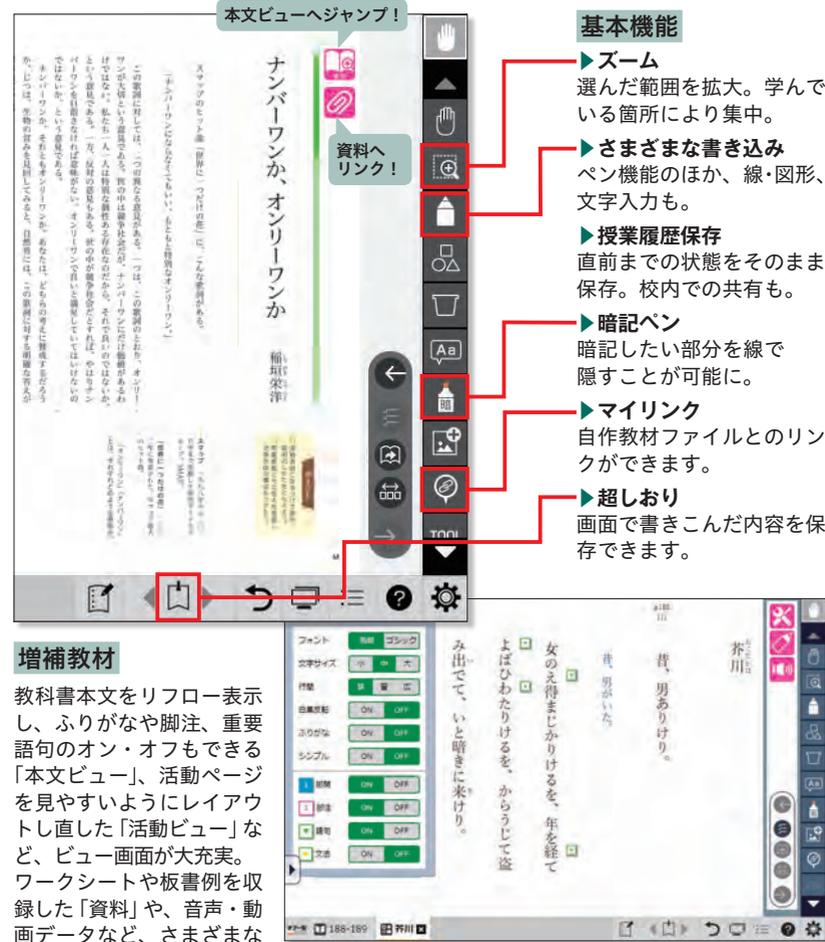
指導者用デジタル教科書（アプリ版・クラウド版）／学習者用デジタル教科書＋教材（クラウド版）

最新情報は  
こちら



■基本機能

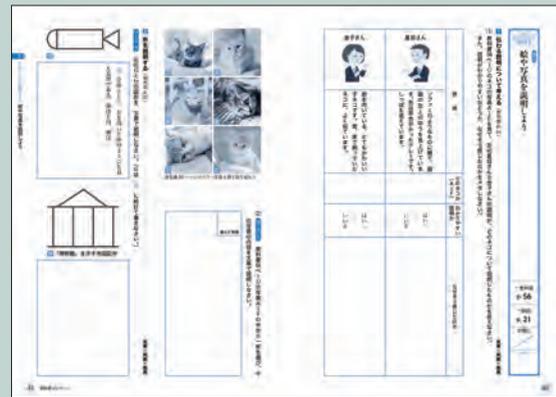
- ▶ズーム  
選んだ範囲を拡大。学んでいる箇所により集中。
- ▶さまざまな書き込み  
ペン機能のほか、線・図形、文字入力も。
- ▶授業履歴保存  
直前までの状態をそのまま保存。校内での共有も。
- ▶暗記ペン  
暗記したい部分を線で隠すことが可能に。
- ▶マイリンク  
自作教材ファイルとのリンクができます。
- ▶超しおり  
画面で書きこんだ内容を保存できます。



▲多機能な「本文ビュー」で授業がスムーズに！

■増補教材

教科書本文をリフロー表示し、ふりがなや脚注、重要語句のオン・オフもできる「本文ビュー」、活動ページを見やすいようにレイアウトし直した「活動ビュー」など、ビュー画面が大充実。ワークシートや板書例を収録した「資料」や、音声・動画データなど、さまざまな機能を盛り込みました。



■学習ノート「別売」  
教科書に完全準拠。読解から表現活動・探究活動まで、予習・復習だけでなく授業でも活用できる生徒用ノート。

いま、高校生に読んでほしい本



「人類の未来は孤立から生まれるのではなく、つながりから始まる。」(p.237)

今や誰もが宇宙に行ける時代となった。科学技術の進歩と先人たちのためめぬ努力によって手の届かなかった夢が現実のものになったのだ。そんな身近になった夢の象徴が民間宇宙船に乗った日本人初の宇宙飛行士・野口聡一だろう。映画化もされた人気コミック『宇宙兄弟』のモデルとしても知られ、三度の宇宙飛行経験がギネス記録にも認定。人とつながりを重視し、約10万人のチャンネル登録者を持つ宇宙のユーチューバーとして情報を発信し続けている。50歳を

野口聡一 『宇宙飛行士 野口聡一の全仕事術』(世界文化社、二〇二二年)

「究極のテレワーク」である豊富な宇宙体験から伝わる説得力！  
新たな時代を乗り切るコミュニケーションのヒントがここにある。

うちだ たけし  
内田 剛

ブックジャーナリスト。約二〇年の書店員勤務を経て、二〇二〇年よりフリーに。NPO本屋大賞実行委員兼理事。

超えてもなお諦めることなく挑戦し続けるプロフェッショナルな生き様は僕たちに大きな勇気を与えてくれる。

地球から400km離れた宇宙とのオンラインによる交信はまさに「全員が生き抜く」という分刻みの命懸けのミッションであり、究極のテレワークでもある。タイトに「仕事術」とあるようにリーダーの素養や問題解決手法のポイントなどが語られ、新たな時代のビジネス書として有益だけでなく、グローバル化社会を生きていく高校生に向けたコミュニケーションのテキストとしても最適だ。

国籍も言葉も価値観もまったく異なるメンバーをいかに「ワン・チーム」にまとめればいいのか。完璧を求めないこと。食事や笑いの要素も大切に、困難な場面

ではいったんリセットすること。「言わなくても分かる」は通用しないこと。まさに異文化交流が日常となった今だからこそ読んでおきたいヒントが満載である。違う視点があるからこそ新たな気づきがあり、改善のきっかけが生まれるのだ。

世界的な宇宙飛行士・野口聡一の夢を育んだのは立花隆『宇宙からの帰還』という一冊の本だった。そしてとかく孤立しがちな宇宙空間のなかで自分の心を保つ力となったのは岡倉天心『茶の本』や世阿弥『風姿花伝』といった読み継がれる古典的名著であった。彼の集大成ともいべき本書もまた多くの「学び」がある。揺るがぬ北極星のようにこの国の若者たちの大きな希望となって明日を照らし続けることだろう。

# 係り結びは「!」と「?」の気持ち

紫式部にファンレターを書こう⑥

おおくら ひろし  
 大倉浩  
 筑波大学教授

【紫式部へのファンレター】  
 おもとのものしつる物語「きりつば」を読みはべり  
 き。死ぬる桐壺更衣ぞ、いとあはれにはべりける。  
 今回は傍線部「ぞ…ける」のような係り結びについて  
 てあらためて考えてみます。

古典文法の必修事項「係り結び」ですが、

係り	はたらき	結び	例
ぞ	強調	連体形	都にぞ、行きける。
なむ	強調		都になむ、行きける。
や(やは)	疑問・反語		都にや、行きける。
か(かは)	疑問・反語	已然形	いづこにか、行きける。
こそ	強調		都にこそ、行きけれ。

のような説明が、どの古典の教科書にも出てきます。  
 普通は終止形で結ぶ文が、これらの係りの助詞が現れる  
 と、連体形や已然形で結ぶという決まりが「係り結

び」です。なぜ終止形ではなく連体形や已然形で結ぶ  
 かについては、いくつかの説がありますが、残念なが  
 ら古代日本語の資料的な制約もあって、定説はありま  
 せん。まずは、「はたらき」(文に添える意味)が、な  
 ぜ「強調」と「疑問・反語」の二種類なのか？ その  
 わけを考えてみましょう。

我々は文ということばの単位を使って、様々な情報  
 をやりとりしています。もちろん、仕事から帰ってき  
 たお父さんが、

「風呂、メシ」

と、二単語だけ発したとしても、お母さんは「まず風  
 呂に入って、それからメシを食べるぞ」という意味で  
 あることをくみ取ることができませんが、場面(文脈)  
 は限定的です。普通は話し手(書き手)が、

「桜の花が咲いた。」

というように、単語を文法に従って組み合わせ、意

味のまとまった文にして聞き手(読み手)に情報を伝  
 えます。事実を淡々と伝える場合もあれば、

「とってもきれいな花が咲いたよ!」

と感動を込めて聞き手に訴えかける場合もあり、

「いつ何の花が咲いたのか?」

と聞き手に問いかけ答えを求める場合もあり、

「咲いた桜を見に来い!」

と聞き手に強制的に命令する場合まで、様々な表現を  
 使って聞き手に文によって働きかけます。

「係り結び」が表す「強調」「疑問・反語」は、こう  
 した聞き手へ向けた表現に関わるもので、主語と述語、  
 修飾語と被修飾語のような、文の内部の構成に関わる  
 ものとは異なっていることが重要です。大雑把にいえ  
 ば、我々が文章を書いている時、単なる「。で結ぶ  
 のではなく、「!」や「?」を付けて相手に訴えたく  
 なるような気持ち、あるいは、話している時に声に抑  
 揚をつけたり強めたりする気持ちを、古語では「係り  
 結び」などを使って表現しているということです。先  
 ほどの感動を古語に書き換えれば、強調は

「いといみじき花ぞ咲きにける。」

という係り結びの文に、疑問は  
 「いつ何の花か咲きにける。」  
 という係り結びの文になるでしょう。

聞き手に対する働きかけがもっとも強い表現は、行  
 を要求する命令です。英語でも命令文という文型が  
 あるように、日本語でも命令専用の活用形、命令形が  
 ありますね。そして回答を要求する疑問文、感動を訴  
 える感嘆文も、ともに聞き手に強く働きかける表現で、  
 英語でも平叙文と文型が異なるように、日本語では、  
 かつては「係り結び」が、現在では「か、ね、の、よ、  
 ぞ」などの終助詞を結び(文末)に付けることで表現  
 されているのです。活用表で見ると、働きかけが一番  
 弱い結びである終止形と、最強の命令形の間、「係  
 り結び」の結びになる連体形や已然形があるのも興味  
 深いですね。

実は「強調」と一括りにしていますが、「ぞ・なむ・  
 こそ」、それぞれが持つ働きかけの気持ちには、時代  
 や文体も含め差があります。「疑問・反語」の「や・か」  
 にも問いかけ方や時代による差があります。今回はこ  
 うした違いを考えます。



古典文法に関するご質問をお寄せください。

→大修館 HP 内「WEB 国語教室」からもお送りいただけます。

<https://www.taishukan.co.jp/kokugo/media/>

## 「小細工がうまい利口者」って褒めたつもり？



関根 健一

●日本新聞協会用語専門委員。元読売新聞東京本社編集委員。大東文化大学非常勤講師。著書に「なぜなに日本語」（三省堂）、「ちびまる子ちゃんの敬語教室」（集英社）など。「明鏡国語辞典 第三版」編集・執筆協力者。

子どもの頃、「お利口さん」と言われたときには、ご褒美が待っていたものです。ところが、大人になって、「利口に立ち回っている」などとうわさされようものなら、人望を失っているおそれがあることを覚悟した方がよさそうです。面倒なことは他人に押し付け、うまくいったら自分の手柄、失敗したら知らん顔なんだから——なんて警戒されているのかもしれない。

「利口」はもともと口の利き方がうまい様子を指します。頭と舌の回転の速さが「利口」の本領ですから、本質を見極め、的確な判断を下す「聡明」や「賢明」と比べると、少々軽薄な部分があります。が、「利口」という語それ自体は褒め言葉でしょう。ただし、「立ち回る」と組み合わせられると、非難するニュアンスが際立ちます。

況を判断して、その後の過程や結果を予測するのも「計算」ですが、「計算高い経営者」などというとき、冷酷な人物像が浮かんできます。

四季折々の草花が楽しめる、耳を澄ませば小川が流れる音と鳥の声が聞こえる——そんなときの決まり文句が「風情がある」です。日本人の美的趣向を表す「風情」という言葉には、それ自体、味わい深い趣が感じられます。

ところが、「○○風情」（○○には人の名前や役目、職業、地位などが入ります）と言ったときは、その○○が大したことがない、つまらない者であるという意味を表します。「私風情が〜」なら謙遜する気持ちを示しますが、他人について使う場合は、その人をおとしめることとなります。

文章を書くときには、それぞれの言葉が持つ意味の広がりや、比喩的な用法などに注意して、内容や文脈にふさわしい使い方をする必要があります。でしょう。だいたいこんな意味だろうと適当に組み合わせる文章を作ると、不快な思いをさせたり、

言葉の意味には広がりがあり、使い方、受け取り方次第で、褒め言葉にもなれば、陰口、憎まれ口にもなります。

もとの意味は中立的でも、よくないことの比喩として用いられる言葉もあります。「小細工」は、手先を使ってするこまごまとした細工を言います。「小細工ができる」のは優れた技術と忍耐力の賜物です。しかし、目先をごまかすだけの浅はかな策略をたどる比喩的な用法があることに気が付かず、「丁寧な説明だったよ。なかなか小細工がうまいね」などと言ったら、相手は不愉快な思いをしてしまいます。

金銭や損得の計算に細かく気を使うのを「計算高い」と表します。足し算、引き算ではなく、状況傷ついたりすることもあります。「そんなつもりなんてない」と言っても、その「つもり」が表れてしまっただけは言い訳は利きません。

このたび、『文章がフツーにうまくなる』としておきのことば術』という本を書きました。書き手の意思・考えがきちんと読み手に伝わる文章を書くためにおさえておきたい、言葉の使い方、選び方を解説しています。「正確さ」と「分かりやすさ」への目配りに加え、今回紹介したような「ふさわしさ」の観点からの注意点も取り上げました。本格的に始まる新指導要領の「書く」活動の参考にもなると思います。「フツーに」の言い方が気になった方もぜひ手に取ってみてください。

新刊!

『文章がフツーにうまくなる』  
とっておきのことば術

関根健一 著  
A5判・並製・一四四ページ  
定価 一七六〇円（税込）

仮名遣い、類語、接続表現、慣用句など  
「書く」ための基本を対話形式で解説



# 青山あり!

## 中国祠墓紀行

[WEB国語教室]連動

### 第六回

### 李廣墓

(甘肅省天水市)

文と写真

平井

徹

慶應義塾大学講師(中国文学)



◆DATA  
 人物：李廣 (?～B.C119)。前漢の名將。『史記』卷109、『漢書』卷64に伝がある。  
 墓所：甘肅省天水市秦州区石馬坪(せきまへい)  
 アクセス：東京から ▶ 6.5h 西安(上海経由)  
 ▶ 鉄道(隴海線) 4h 天水  
 あわせて行きたい：伏羲(ふつき)廟、南郭寺杜少陵祠(甘肅省天水市)、李氏故里(甘肅省定西市隴西県)

李廣(?～前一一九)。前漢文帝期から武帝期にかけての名將。隴西郡成紀県(現在の甘肅省天水市秦安県)の人。代々武門の家柄で、匈奴との七十余度にわたる戦いで功名を立て、とりわけ騎射を得意としたため、「飛將軍」と畏怖された。狩りに出た折に、虎と思ひ込んで射た石に矢が突き立ったというエピソードは有名。衛青と霍去病が大挙して匈奴に攻め込んだ折に別動隊を率いて進軍したが、道に迷って約束の期限に遅延し、その責任を負って自害した。

部下に慕われる人柄の持ち主で、その悲劇的な死は、「桃李言はざれども 下自ら蹊を成す」の名言とともに、敵

李姓を名乗る人口は一億人を超え、全世界で最大級の姓とされている。李氏朝鮮、ベトナムの李朝、果てはシンガポールのリー・クワンユー元首相、台湾の李登輝元総統のルーツもこの地だという。天水市の西、定西市隴西県には壮麗な「李氏故里」が整備され、世界中の李氏が訪れるのだそう。ちなみに、かつての中国で絶対視されていた「同姓不婚」の原則は、仮に同姓であっても、同じ祖先から出たのでなければ(「同姓不同宗」という)許容されていた。市街地の南、文山山麓に現存する李廣墓は、後世になって築かれた衣冠塚である。その起源はわからないが、清の乾隆年間には同地に墓が存在したという記録がある。現



▲李廣墓入口



▲享殿



▲衣冠塚。手前の碑に刻まれた文字は蒋介石の筆に成る



▲天水市内で見つけた「飛將武術培訓中心(飛將武術訓練センター)」の看板。現地では今なお李廣の末裔が武芸を伝承している(写真はすべて2007年撮影)

味方を問わず惜しまれ、その不遇の生涯は、司馬遷にひときわ情熱のこもった伝を書かせるに至った。中島敦の小説で有名な李陵がその孫にあたることは、広く知られている。「隴西の李氏」は天下に名だたる名門となった。遥か後代、唐王朝を建国した李氏は、その出自が鮮卑系の貴族であったにもかかわらず、自ら李廣の子孫と称した。詩人李白の出自も、いわゆる「胡人」(西域の非漢族)との説が有力であるが、彼の伝記には、「隴西の李氏」と記されている。中国の説話「人虎伝」、それに想を得た中島敦の小説「山月記」のいずれも、その主人公は「隴西の李徹」である。

存する大門や「飛將佳城」の力強い墨痕が印象的な門額は目新しく、清代の建築物である享殿にも修復の手が加えられていた。ごんまりした敷地の奥にある衣冠塚(周囲の長さ二十五メートル)のかたわらに、「中華民國三十三年十一月一日立碑/漢將軍李廣之墓/蔣中正題」と刻まれた、方形の煉瓦作りの碑が建っている。大陸では稀有なものに違いあるまいが、蒋介石(中正が名、介石は字)が天水騎兵学校を視察する目的でこの地を訪れた際に揮毫し、墓碑建立を託したのだという。第二次国共内戦の前夜、ひととき李廣の墓前に佇んだ彼の胸中に去来したのは、いったい如何なる想いであっただろうか。

# 「言語文化」で近代詩の授業をいかに展開するか ——「整のうへ」を例として——

くろいわ あつし  
黒岩 淳

福岡県北筑高等学校教諭

## 一 はじめに

令和四年度から年次進行で実施される新学習指導要領では、必修科目が「国語総合」から「現代の国語」と「言語文化」となる。近代詩の授業は、「言語文化」の中で扱うことになると思われるが、どのように進めるのが良いか、改めて考えてみたい。定番と思われる詩について、語句の意味や解釈については、研究が進んでほとんど書き尽くされていると思われる。しかしながら、どのように詩の授業を展開するかということについては、生徒の実態に応じて変えていく必要があるし、その実践について情報を交換し、積み重ねていくことが今後大切ではないかと考える。教科の目標の三つの

柱「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を意識して考えてみたい。

## 二 詩の授業の方針

詩を鑑賞する授業では、まず、先入観なしに作品に対峙させたい。特に文語詩では、内容がわからず、とまどう生徒もいるかもしれないが、じっくりと詩の内容を考えさせたい。「思考力」を深めるために、重要だと考える。そして、適切な問いを投げかけることによって、生徒自身に、さまざまなことに気づかせたいと思う。

生徒は、知識として覚えるのではなく、問いを手掛かりに作品からさまざまなことを自ら見つけていくところに、面白さも感

じられてくると考える。そこに、「学びに向かう力」が養成されてくるのであろう。

詩は、声に出して読んでみて、なんとなくいいなあと感じられればよいという人もいる。確かに感じることも大切であるが、一方で、言葉の意味を確認し、論理的に解釈していくことも重要であることを確認しておきたい。

## 三 詩の授業の展開

詩の授業は、音読から入る。範読の後、斉読をする。そして、短い詩であれば、ノートに書きさせる。その際、あとから書き込みができるように、行間を空けて写すように指示する。

その後に、初読の感想を書かせる。この

初読の感想を書かせることで、生徒は、作品と対峙することになる。すぐに、解説本にたよるのではなく、自分の力で作品と向き合うことの大切さを意識させたいと思う。自分の力で、どこまで読みとれるか、自覚させたい。

教師側も、初読の感想を読むことにより、生徒が作品をどのように理解し、どこまで読み取っているのかを知ることができる。そして、それをふまえて授業を組み立てていくことになる。

あはれ花びらながれ  
をみなごに花びらながれ  
をみなごしめやかに語らひあゆみ  
うららかなの聲音空にながれ  
をりふしに瞳をあげて  
翳りなきみ寺の春をすぎゆくなり  
み寺の薨みどりにうるほひ  
廂々に  
風鐸のすがたしづかなれば  
ひとりなる  
わが身の影をあゆまする整のうへ

## 四 三好達治「整のうへ」の授業

具体的に「整のうへ」を例として考えてみたい。

### (1) この詩で生徒に学ばせたいこと

#### 【内容】

晴れ渡った春の日、桜の花が舞い散る中、寺の境内を談笑しながら少女が行きすぎる。ゆったりとした時間が流れている。そのような情景を見ながら作者は自分の影を見つめ、彼女たちとは違う、孤独な自分を感している。

#### 【対比的構造】

前半は、明るい叙景、後半は、孤独な作者の思いを読み取ることができる。対比的な構造ともいえる。それは、「瞳をあげて」いる「をみなご」と、影を見つめる、つまり下を向いている作者との対比も含まれる。また、風に乗って流れるように散る桜と、音を立てていない「しづか」な風鐸も対比的に捉えることができよう。

#### 【表現技巧】

「ながれ」という連用形の繰り返しによってリズムが生まれ、花びらが風に乗って散る様子を感じさせている。

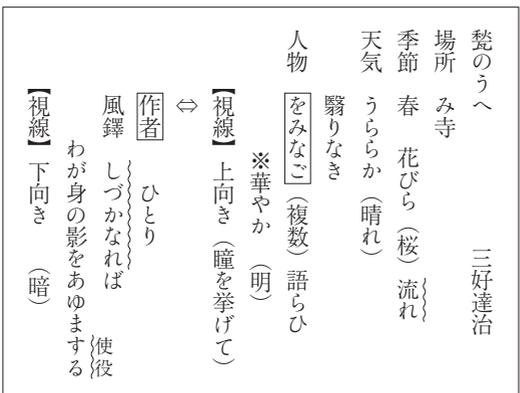
#### 【文法】

「うららかな」形容動詞の語幹の用法  
「しづかなれば」已然形＋「ば」の確定条件  
「あゆまする」使役の助動詞

### (2) 問い

- 1 場所はどこか。
- 2 季節・天候
  - ・「み寺の春をすぎゆくなり」の主語は何か。
  - ・春を表すものは何か。
  - ・天気はどうなのか。
- 3 登場人物
  - ・「をみなご」とは何か。
  - ・をみなごは何人か。
- 4 構成
  - ・「影をあゆまする」の主語は何か。
- 5 対比的に描かれていることは何か。
- 6 感覚的表現
  - ・視覚的なものを指摘せよ。
  - ・聴覚的なものを指摘せよ。
- 7 技法
  - ・効果的な表現を指摘せよ。
  - ・リズムを感じさせる表現を指摘せよ。

まず、場所を確認させる。「み寺」という言葉はすぐに出てくるだろう。次に「季節はいつか」という問いかけをしたい。この問いは大切である。生徒は、「春」という言葉に目を止めるだろう。だが、「み寺の春をすぎゆくなり」という言葉を「み寺の春はすぎゆくなり」の意味にとり、「春が過ぎていく」ととってしまいがちなのである。また、「みどり」という言葉から、夏ではない



板書・スクリーン

う評価も生まれてくる」とする。

小川氏は「梵のうへ」の説明の補足として、紹介しているのであるが、生徒に比較させ、共通点と相違点を考えさせても良いであろう。共通点として、花の下の乙女という場の雰囲気指摘できるが、相違点として、作者の「孤独感」の有無を指摘する生徒が出てくるのが期待される。

#### (4) 主体的、対話的方法

教師の一方的な問いや説明となれば、単調になってしまがちである。生徒が主体的に読んでいこうとする機会、また、その読みを主体的に発言するような機会を設定する必要があるのである。また生徒同士が対話する機会も設けたい。特に作者の心情などは、隣の生徒もしくは、グループで話し合わせる機会を設定することが肝要だろう。

#### (5) 鑑賞文

学習の後には、鑑賞文を書かせたい。その際、題をつけさせる。「作者の表現したかったこと」「描かれた情景」「表現上の特色」「なぜ「梵のうへ」という題なのか」など、具体的にいくつか示して、生徒に書きたいテーマを選ばせるとよい。

かと考えてしまう生徒もいる。

したがって、次に「み寺の春をすぎゆくなり」の主語は何か」という問いが有効である。「み寺の春は」ではなく「み寺の春を」となっていることに、改めて注目させる。そうすると、前にある「瞳をあげて」という言葉から主語は「をみなご」であることに気がつくのである。

また、「花」が桜であること、「流れ」とは、桜が散って風に舞う様子を表していることに気づかせたい。

作者の心情を考えさせることは、「思考力、判断力」をつけさせるうえで、重要な問いとなる。時間をとって、ペア学習をさせたり、グループで話し合わせることも大切であろう。

この詩が、どのような作者の心情を表しているかを考えさせるためには、対比的な構造に気づかせることが有効であろう。そのため、まず、登場人物を確認させる。

「をみなご」は何人かという問いも大切である。「語らひあゆみ」という言葉から複数であることに気づかせる。そして、対照的なものは何かを問うのである。

#### (6) 他の詩の紹介

同じ作者の詩を紹介して、詩人の理解を深めさせる。また、便覧を利用して詩人の生涯にも目を向けさせたい。

#### 五 評価

評価の観点として、内容を理解できたかという点を確認することは勿論であるが、主体的に発言できたか、また記述できたかという点も、積極的に評価していきたい。

#### 六 終わりに

韻文学習の大切さは、改めて言うまでもないが、韻文といってもさまざまな分野がある。多様な韻文に親しませ、時には創作活動も取り入れることによって文学の豊かさに触れさせ、生徒には、生涯にわたって文学に親しみたいと思わせるような授業をしていきたいと思う。それが「学びに向かう力」につながっていくはずだ。

注1…小田迪夫氏は、「詩は多義性を生命とする表現」であり、散文を解釈するよりも大きな思考エネルギーを必要とする」と指摘している。そして、詩の分析的理解にもとづく論理的解釈は「明晰に思考する力すなわち論理的思考力」と、それと表裏をなす論理的表現力を高める学習」として、その

「わが身の影をあゆます」の主語が作者であることに気づかせ、その自分の影を見つめている思いに迫らせる。前半の明るく少女の様子が印象的であればこそ、対照的な作者の孤独感が浮き彫りになるという構造に気づかせることができれば、この詩の魅力を強く感じさせることになるだろう。

#### (3) 比較

「思考力、判断力」を育成するためには、他の作品と比較させるという方法も有効であろう。

小川和佐氏の実践では、万葉集の「春の苑紅にほふ桃の花下照る道に出で立つをとめ」や唐詩選にある劉廷芝の「白頭を悲しむ翁に代る」の次の一節を紹介している。

洛陽城東桃李の花  
飛び来り飛び去つて誰が家にか落つる

洛陽の女兒顔色を惜しむ

行く落花に逢うて長く嘆息す

今年花落ちて顔色改まり

明年花開いて復た誰かたる

そして、「梵のうへ」と共通する詩情があることを指摘し、「昭和の詩の中に伝統的な詩情を回復さす詩人としての三好達治とい

効果が期待できると述べている。「論理的思考力を育てる詩の指導」『月刊国語教育』一九九六年十二月号(東京法令出版)

注2…小川和佐氏は、授業の前半、次のように展開してきている。①音読 ②区切れ(前半と後半)を考えさせる。③省略語の説明(花びら「が」など) ④最終行の「あゆます」の文法説明⑤「梵」の表記の説明⑥「をみなご」の説明⑦運用中止形の説明⑧視覚的なものに聴覚的なものが加わることの説明(以下略『近代詩の教え方』関良一編、右文書院・一九七六年)

原崎孝氏は、この詩のおさえるべき特徴として次の三点を指摘している。①文体が、古語から現代語にまで続いている。和文脈、あるいは雅語のひびきのあるような語のつながり方。②イメージのつながり方。(ながれ、つながり、重なり) ③情緒的なようでありながら、主観的な視点よりも、むしろ客観的な映像の連鎖によって、典雅な雰囲気がかもし出されていくこと。『国語教材研究講座 高等学校現代文 中巻 詩・短歌・俳句』(有精堂・一九八三年)

注3…近代詩の教え方 一七三頁

注4…中島義道氏は、発言しない学生の問題を取り上げ、その原因を考察し、対話をするための重要性を指摘していて、大変参考になる。『対話のない社会』(PHP新書・一九九七年)

注5…今まで、特に「連歌」について、教材化を考えてきた。拙著『連歌と国語教育』(淡水社・二〇一二年)『連歌の息吹』(淡水社・二〇一六年)『連歌を楽しむ』(淡水社・二〇二〇年)

関根健一 著

文章がフツーにうまくなる

## とっておきのことば術

A5判・並製・一四四ページ  
定価 一七六〇円(税込)

評者 中楠 玲

いわゆる「文章術」とは、少し違う。文章を書くときに知っておきたい言葉の知識、すなわち「ことば術」を覚えてくれる一冊である。

本文は可愛らしい動物たちの気楽な会話形式。14のレッスンから成り、漢字と仮名の書き分け、仮名遣いや送り仮名のルール、和語・漢語・外来語の印象や効果、接続詞の選び方など、多様な話題を取り上げている。「文章を書くことがゴールなのに、漢字や仮名の使い方から解説するのか!」と驚いたが、

読み進めるうちに理解した。「ことば術」とは、情報や自分の思いを伝える際の、読み手に対する気遣いの技術なのだ。読み手に合わせて言葉や表記を吟味する、読み手との間に誤解が生じないように正しく言葉を使う、そのような気遣いができれば、確かに文章は上達するだろう。各レッスンの最後にはポイントのまとめやチャレンジ問題もあり、中高生の「書く」ためのガイドとして最適である。新指導要領の授業でも、さまざまな場面で活用できるはずだ。

白畑知彦 著

英語教師がおさえておきたい

## ことばの基礎的知識

A5判・並製・二四二ページ  
定価 二四二〇円(税込)

評者 松原綾子

英語というといふ腰が引けてしまうのだが、国語同様「ことば」を扱う教科として、英語科ではどういう理念で何を教えているのか知っておくことは、とても役に立つ。何しろ生徒は同時期に国語と英語、両方の授業を受けているのだから。そういう目で本書を読むと、実にさまざまな気づきが得られる。

たとえば、英語を母語にしていない人は世界の52%しかいないが、世界の学校現場で最も大勢の人が学んでいる言語は英語だ。だから英語で話す相手は英

米人とは限らないこと。

英語学習は母語である日本語がどういう特色を持つことばかを考える鏡になること。幼児は必ずしも親の真似をしてことばを覚えるわけではないこと(これにはかなりビックリした)。母語は日本語でも英語でもロシア語でも似通った過程で獲得するが、外国語の獲得は個人差があること、それはなぜなのか。

学部生までが対象なためか、具体例を挙げつつ要点をおさえた説明はとても分かりやすく、言語学入門としてもお勧めだ。

渡部信一 著

## AI×データ時代の「教育」戦略

四六判・並製・二〇〇ページ  
定価 一七六〇円(税込)

評者 木村悦行

新型コロナウイルス感染症の蔓延からすでに2年が経過している。この間に「オンライン授業」も授業方法の一つとなっている。生徒一人に一台のタブレットPC配布、デジタル教材の授業での活用、プログラミング教育など、これまで予定されていた路線とは別の形で、奇しくも教育現場のデジタル化は急速に進んだ。これは不安定・不確実・複雑・あいまいの時代といわれる一例ともいえよう。

そのような時代に入り、本書は今後の教育のあり方を、十年

先の技術の進歩を予測しながら、五つの戦略として提案する。たとえば、教育現場の様々な場面でAIが導入され業務の効率化が促進された。その先には、これまで授業で行われてきた知識の効率的な教授も、いずれは個々の学習者データに基づきAIが担うことになる」と本書は予測する。その結果、授業での教師の役割も変化していくと解説する。

予測しにくい教育現場のデジタル化に備え、読んでおきたい一冊である。

藤岡達也 著

## SDGsと防災教育

持続可能な社会をつくるための自然理解

A5判・並製・二〇八ページ  
定価 二二〇〇円(税込)

評者 御神渡 歩

いまやSDGsの文字を見かけない日はないが、持続可能な社会の実現のために設定された17のゴールについてどれだけの人が理解しているだろうか。

ゴール達成のための169のターゲットには「気候変動や災害への暴露や脆弱性を軽減」「災害による死者や被災者数の大幅削減」といったものがあり、実は防災教育の目標とも重なっている。

SDGsの観点から防災教育を見直す、その可能性と必要性が理解できるという観点で編まれたのが本書である。

災害をもたらす自然現象については豊富な図版を用いて解説されているが、知識を得ることが減災につながるだけでなく、景勝地の多くが自然現象災害によって形作られたことを知ることで、自然の二面性も理解できるしつらえになっている。

持続可能な社会とは、地球上のすべての人間が安全かつ人間らしく生きていくことのできる社会ともいえる。人と自然のかわりを学ぶ防災教育を通して、そうした社会を構築できる可能性を感じる一冊である。

## News &amp; Topics

国語・教育に関わる情報と  
授業に役立つ話題を集めました。

 国語に関する世論調査

文化庁は9月24日、令和2年度の「国語に関する世論調査」を公表した。

今回の調査では、マスクをつけたコミュニケーションについてや、ビデオ会議・WEB通話に関する調査も行われ、マスクを着けている状態の会話は着けていない時と「変わることがあると思う」者は62・4%だった。変わる点については「声の大きさに気を付けるようになる」が74・1%と最も多かった。

なお、本年から調査方法が変更され(対

面式から郵送式へ)、以前と直接比較はできない。


 教育行政関係

- 文科省、教員免許更新制の発展的解消を盛り込んだ「審議まとめ」を了承(11/15)
- 「こども家庭庁」創設に向けて基本方針を閣議決定(12/21)
- 文科省、わいせつ教員防止法運用指針案公表(12/22)
- 令和4年度大学入学共通テスト実施(1/15,16)
- 国大協「2024年度以降の国立大学の入学者選抜制度—国立大学協会の基本方針—」の公表(1/28)
- 文科省「教育進化のための改革ビジョン」を公表(2/25)

 国語関係・時事

- 「国語に関する世論調査」結果公表(9/24)
- ノーベル文学賞はアブドゥルラザク・グルナ氏(10/7)
- 新潮社で森鷗外直筆原稿など明治・大正の文豪の資料発見(10/15)
- 瀬戸内寂聴死去。99歳(11/9)
- 「今年の漢字」は「金」(12/13)
- 芥川賞は『ブラックボックス』(砂川文次)、直木賞は『塞王の楯』(今村翔吾)、『黒牢城』(米澤穂信)が受賞。(1/19)
- 石原慎太郎死去。89歳(2/1)

 令和4年度大学入学共通テスト実施

2022年1月15・16日の2日間、大学入学共通テストが実施された。

志願者は53万367人で、昨年より4878人減。実際の受験者は48万8384人(追・再試験含む)で前年より4270人減、受験率は92・08%だった。

1/15・16の本試験受験者は48万6848人。追試験、再試験等を受けた者は15

36人(15・16日の本試験に加えて受けた者も含む。昨年の追・再試験者は1489名)。

国語の平均点は110・26点(200点満点。前年より7・25点低下)、受験率は94・6%。得点調整は行われなかった。

新型コロナウイルスの問題だけでなく、刺傷事件や問題流出、津波警報に伴う試験中止(1会場)などの異例の状況にも見舞われた。


 2024年度以降の大学入学共通テスト

1月28日、国立大学協会は「2024年度以降の国立大学の入学者選抜制度—国立大学協会の基本方針—」を公表した。

2024年度より、国立大の大学入学共通テストを用いた入試は「情報」が加わり、原則として「5教科7科目」から「6教科8科目」を課すことになる。

なお、大学入学共通テストは、新学習指導要領下で学んだ学生が受験する2024年度実施分から「情報」を加え7教科21科目に再編される(現状は6教科30科目)。また、以下の点が変わる。

○試験終了時刻の10分繰り下げ。

○「情報」の新設(試験時間60分)。

○国語の問題数増加、試験時間90分に。

○理科が一つの時間帯に統合。

○「数学Ⅱ、数学B、数学C」は試験時間70分に。


 「教育進化のための改革ビジョン」

文部科学省は、2月25日、初等中等教育

段階の教育政策の改革方針を示す「教育進化のための改革ビジョン」を公表した。新型コロナウイルス感染症をきっかけに、生活様式の変化やデジタル化が進む中で、具体的な進め方などの方針を示したものである。ここでは「令和の日本型教育」の具体的な進め方を、二つの基本理念と四つの柱の形で示している。


 研究会・展覧会だよ

※新型コロナウイルス感染症に関連して、開催の延期、中止、オンライン開催への変更などの可能性があります。学会・研究会HPをご確認ください。

 日本語学会2022年度春季大会

[日時]2022年5月14日(土)・15日(日)

[場所]オンラインにて開催


 日本方言研究会 第114回研究発表会

[日時]2022年5月21日(土)

[場所]オンラインにて開催


 全国大学国語教育学会 第142回大会

[日時]2022年5月28日(土)・29日(日)

[場所]オンラインにて開催


 全国漢文教育学会 第37回大会

[日時]2022年5月28日(土)・29日(日)

[場所]東京学芸大学(詳細未定)


 没後50年・日本近代文学館開館55周年  
川端康成展

[会期]2022年4月2日~6月11日

[場所]日本近代文学館



昨年10月に入社し先生方へご挨拶させていただく中で、教材の話、授業の話など、いろいろなお話をさせていただいております。その中で、自分が高校で学んだ国語のことも、しみじみと思い返しました。小説や評論を通し、さまざまな文章の魅力や語彙を学びました。国語教材は、その内容を通じて読者もつ国語の興味の扉を開くことができ、数多くの執筆者の言語センスや語彙が私たちの脳裏に残り続けます。それが表現力となり、コミュニケーションの基礎になっていくのだと思います。国語の授業で学んだことに今の自分の仕事を助けられていると実感する日々です。今後ともご指導頂ければ幸いです。

北海道支店 宮本研一郎



新型コロナウイルス感染拡大の最中、「菓ごもり」なる言葉が生まれた。元来出不精なので、休日は好きな読書に時間を費やす日々を送っている。また、世間でも「菓ごもり」により読書が見直されつつあるようだ。先日、こんな話を聞いた。読書家で見られる著名なジャーナリストが若者から「どんな本を読めばよいのですか」という質問をよく受けるという。答えは「自分の興味を持った本ならば何でもよい」とのこと。人に尋ねるのではなく自ら興味・関心を持った本を読めば知識も身につく読書の幅も広がるそうだ。若者の読書離れが続く中、「菓ごもり」が読書のしかたを考え直すきっかけになった。

東海支店 高橋昌弘



ある日「WEB」で、「いつか学園モノのアニメでも、『論理国語』とか『文学国語』を勉強しているシーンが出てくるのかな」というツイートを発見しました。たしかに、国語の科目名って、フィクションのなかに出てくることもしばしば。小説でも、例えば村上春樹の「ウィズ・ザ・ビートルズ」には、「現代国語」の副読本を音読するシーンがあります。国語の科目名は、世代を表すひとつの指標なのかも。

表現することやお互いに伝え合うことも重視される、新しい国語。自分が高校生だったときの国語は、「あの文章を読んだとき、あんな気持ちだったな」というふうに思い返すことが多いですが、これからは「あのとき、グループですつごく深い話し合いをしたな」「あの小説の展開にかなり詳しくなったな」「あんな気持ちでプレゼンをしたな」……というふうにも思い返されていくのでしょうか。卒業後に思い出される「国語の授業」の姿も、きっとどんどん変わっていくのだと思います。新課程、いよいよスタートです。(原)

詩の作品、大募集!

詩人の和合亮一先生による連載「詩の教室へようこそ」では、高校生による詩の創作作品を募集いたします。お寄せいただいた作品は、和合先生に選んでいただき、優れたものを連載の中でご紹介いたします。作品が掲載された方には、大修館オリジナルグッズをプレゼント!

「大修館書店『国語教室』係」まで、奮ってご応募ください。

国語教室 第117号  
2022年4月15日発行

編集室 国語教室 編集室  
発行人 鈴木 一 行  
印刷所 広研印刷株式会社  
発行所 株式会社 大修館書店  
〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1  
電話 03(3868)2651(販売部) 03(3868)2290(編集部)

出版情報 <https://www.taishukan.co.jp>